Canon

EOS 5D
DIGITAL



Exif Print DPOF PictBridge DIRECT PRINT BUBBLE JET DIRECT

J

使用説明書

Canon EOS 5D DIGITAL 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 5D は、有効画素約1280万・35.8× 23.9mmの大型CMOSセンサーを搭載した高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、高精度9点AF搭載、全EFレンズ群対応（EF-Sレンズ除く）、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、簡単な自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（8、9ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをして、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やCFカードなどの不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobe、およびPhotoshopは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された、米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCFは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

付属品の確認

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

□ **EOS 5D**／カメラ本体（アイカップ、ボディキャップ付き、日付/時計機能用リチウム電池内蔵）

□ **バッテリーパック BP-511A**（保護カバー付き）

□ **バッテリーチャージャー CG-580**

□ **インターフェースケーブル IFC-400PCU**

□ **ビデオケーブル VC-100**

□ **ワイドストラップ EW-100DGR**（アイピースカバー付き）

イオス デジタル ソリューション ディスク

□ **EOS DIGITAL Solution Disk**（CD-ROM）

□ **ソフトウェア使用説明書**（CD-ROM／PDF形式）

□ **ポケットガイド**

すぐに撮影したい方は、このポケットガイドをご覧ください。

□ **EOS 5D使用説明書**（本書）

□ **ソフトウェアガイド**

付属ソフトウェアの概要とインストール方法を説明しています。

□ **お客様ご相談窓口一覧／安全上のご注意**

□ **カメラ保証書**

※ 付属品は、なくさないようご注意ください。

※ 撮影画像を記録する**CFカードは付属していません**ので､別途ご購入ください。なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

目　次

はじめに

付属品の確認.......3
やりたいこと目次.......6
取り扱い上のご注意.......8
すぐ撮影するには.......10
各部の名称.......12
本使用説明書上のおことわり.......18

1 撮影前の準備と基本操作 19

バッテリーを充電する.......20
バッテリーを入れる／取り出す.......22
家庭用電源を使用する.......24
レンズを取り付ける／取り外す.......25
CF カードを入れる／取り出す.......26
撮影の基本操作.......28
メニュー機能の操作と設定.......31
表示言語を設定する.......36
電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ.......37
日付／時刻を設定する.......38
日付／時計機能用電池を交換する.......39
撮像素子を清掃する.......40
鮮明なファインダーに調整する.......42
カメラの構え方.......42

2 カメラまかせの自動撮影 43

全自動で撮る.......44
セルフタイマー撮影.......46

3 画像に関する設定 47

記録画質を設定する.......48
ピクチャースタイルを選択する.......51
ピクチャースタイルを調整する.......53
ピクチャースタイルを登録する.......56
ISO 感度の設定.......58
ホワイトバランスを設定する.......59
マニュアルホワイトバランス.......60
色温度を直接設定する.......61
ホワイトバランスを補正する.......62
ホワイトバランスを自動的に変えて撮る.......63
色空間を設定する.......65
フォルダの作成と選択.......66
画像番号の設定方式.......68
カメラの設定内容を確認する.......70

4 AF/ 測光 / ドライブの設定 71

AF モードの選択.......72

AF フレームの選択 75
画面の端の被写体にピントを合わせる 77
AF の苦手な被写体（手動ピント合わせ） 78
測光モードの選択 79
ドライブモードの選択 80

5 撮影目的にあわせた応用撮影 81

プログラム AE 撮影 82
シャッター速度を決めて撮る 84
絞り数値を決めて撮る 86
ピントの合っている範囲を確認する 87
自分で露出を決めて撮る 88
自分の好みに露出を補正する 90
露出を自動的に変えて撮る／ AEB 撮影 91
露出を固定して撮る／ AE ロック撮影 93
長時間露光（バルブ）撮影 94
ミラーアップ撮影 95
表示パネルの照明 96
アイピースカバーの使い方 96
電子音を鳴らないようにする 97
CF カードの入れ忘れを防止する 97
ストロボを使った撮影 98
汎用ストロボを使った撮影 100

6 撮影画像の再生 101

撮影直後の画像表示時間を設定する 102
縦横自動回転表示の設定 103
液晶の明るさを調整する 104
撮影した画像を再生する 105
　1 枚表示、インデックス表示、拡大ズーム表示 .... 105 ～ 109
　オートプレイ、画像回転 .... 110 ～ 111
ジャンプ表示する 112
撮影した画像をテレビで見る 114
撮影画像を保護する 115
撮影画像を消去する 116
CF カードを初期化する 118

7 カメラダイレクトプリント 119

印刷の準備をする 121
PictBridge ／ CP ダイレクト／ Bubble Jet ダイレクト .... 124 ～ 133
かんたん印刷 136

8 撮影画像の印刷指定／ DPOF 137

9 カメラをカスタマイズする 145

10 資料 157

やりたいこと目次

画質

- いろんな写真表現を楽しみたい ➡ p.51（ピクチャースタイル選択）
- 写真の仕上がりを自分好みに調整したい ➡ p.53（ピクチャースタイル調整）
- 写真をあとで大きく印刷したい ➡ p.48（◢L, ▟L, RAW）
- たくさん写真を撮りたい ➡ p.48（◢S, ▟S）
- 写真の色合いを調整したい ➡ p.62（WB補正）
- 白黒やセピア調の写真を撮りたい ➡ p.51（モノクロ）

ピント合わせ

- ピントを合わせる位置を変更したい ➡ p.75（⊞AFフレーム選択）
- AFフレームをすばやく選択したい ➡ p.152（C.Fn-13-1, 2）
- 止まっている被写体を撮影したい ➡ p.73（ワンショットAF）
- 動いている被写体を撮影したい ➡ p.73（AIサーボAF）

ドライブ

- 連続して写真が撮りたい ➡ p.80（▣ 連続撮影）
- 自分も写真に写りたい（記念写真） ➡ p.46（ⓢ セルフタイマー）

撮影

- カメラまかせで簡単に撮影したい ➡ p.44（全自動で撮る）

- 動きを止めたり、流動感のある写真を撮りたい ➡ p.84（**Tv** シャッター優先AE）
- 背景をぼかしたり、背景まで鮮明な写真を撮りたい ➡ p.86（**Av** 絞り優先AE）
- 写真の明るさ（露出）を調整したい ➡ p.90（露出補正）
- 花火を撮影したい ➡ p.94（バルブ撮影）
- 暗いところで撮影したい ➡ p.98（ストロボ撮影）

再生／印刷

- 写真をカメラで見たい ➡ p.105（▶再生）
- 不要な写真を消したい ➡ p.116（🗑消去）
- 大事な写真を誤って消さないようにしたい ➡ p.115（⊶プロテクト）
- 写真をテレビで見たい ➡ p.114（ビデオ出力）
- 写真を簡単に印刷したい ➡ p.119（カメラダイレクト）
- 液晶モニターの明るさを調整したい ➡ p.104（液晶の明るさ）

電源

- 家庭用電源を利用したい ➡ p.24（ACアダプターキット）
- 電源が自動的に切れる時間を変更したい ➡ p.37（オートパワーオフ）

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理サービスご相談窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理サービスご相談窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。レンズ、CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理サービスご相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

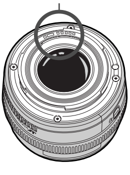
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

CFカードについて

- CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CF カードが変形して使用できなくなります。
- CFカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、CF カードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- キヤノン製以外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないことがあります。このようなときは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えたりしないでください。
- 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所に保管しないでください。

レンズの接点について

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

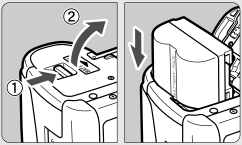


妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

すぐ撮影するには

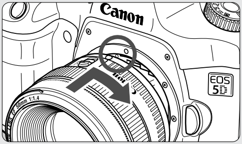
1



バッテリーを入れる（p.22）

バッテリーの充電方法については20ページを参照してください。

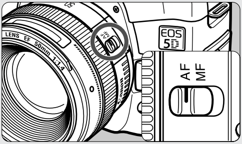
2



レンズを取り付ける（p.25）

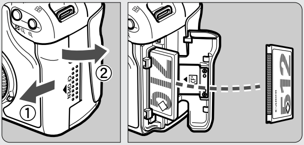
赤い指標に合わせて取り付けます。

3



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.25）

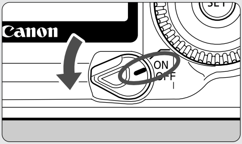
4



カバーを開け、CFカードを入れる（p.26）

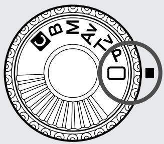
CFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

5



電源スイッチを〈ON〉にする（p.28）

6



モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.44）

撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

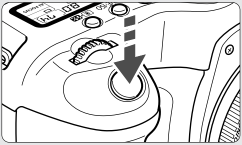
7



ピントを合わせる（p.28）

写したいものにAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。

8



撮影する（p.28）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



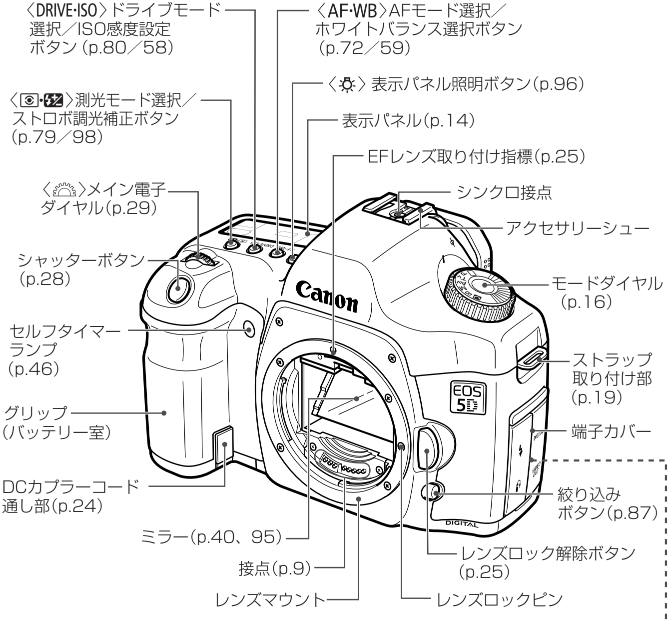
撮影した画像を確認する（p.102）

撮影した画像が液晶モニターに約2 秒間表示されます。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『撮影した画像を再生する』（p.105）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『撮影画像を消去する』（p.116）を参照してください。

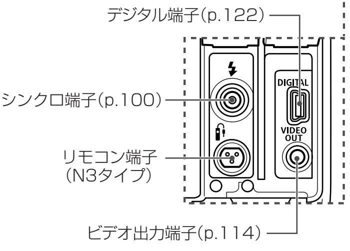
各部の名称

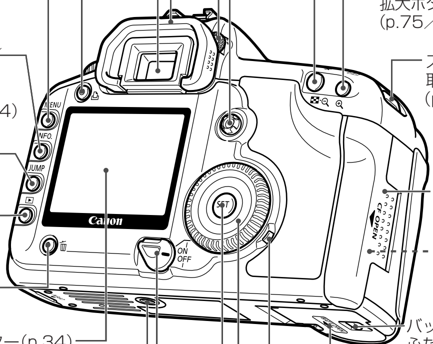
（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

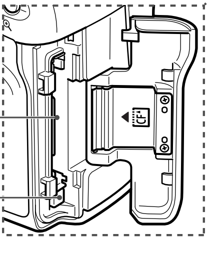




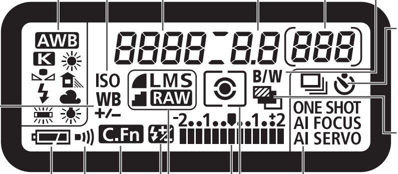
ボディキャップ（p.25）




視度調整つまみ(p.42)
〈 〉マルチコントローラー（p.30）
アイカップ(p.96)
〈 ／ 〉AEロック/FEロックボタン／インデックス/縮小ボタン(p.93/98／108/109、134)
ファインダー接眼部
〈 〉イージープリントボタン(p.136)
〈 ／ 〉AFフレーム選択／拡大ボタン(p.75／109、134)
〈MENU〉メニューボタン(p.31)
ストラップ取り付け部(p.19)
〈INFO.〉インフォ／トリミング枠縦横切り換えボタン（p.70、105／134）
〈JUMP〉ジャンプボタン(p.112)
CFカードスロットカバー(p.26)
〈 〉再生ボタン(p.105)
〈 〉消去ボタン(p.116)
バッテリー室ふた開放レバー（p.22）
液晶モニター(p.34)
三脚ねじ穴
バッテリー室ふた(p.22)
〈 〉電源／サブ電子ダイヤルスイッチ(p.28)
アクセスランプ（p.27）
〈 〉設定ボタン(p.31)
〈 〉サブ電子ダイヤル(p.30)
MENU
INFO.
JUMP
SET
ON
OFF
Canon
CF OPEN


CFカードスロット(p.26)
CFカード取り出しボタン(p.26)

表示パネル



シャッター速度
データ処理中(**buSY**)
ISO感度

ISO ISO表示

ホワイトバランス
- AWB オート
- 太陽光
- 日陰
- くもり
- 白熱電球
- 白色蛍光灯
- ストロボ
- マニュアル
- K 色温度

WB +/− ホワイトバランス補正

バッテリーチェック

電子音

C.Fn カスタム機能

ストロボ調光補正

記録画質
- **L** ラージ／ファイン
- **L** ラージ／ノーマル
- **M** ミドル／ファイン
- **M** ミドル／ノーマル
- **S** スモール／ファイン
- **S** スモール／ノーマル
- RAW ロウ

AFフレーム選択（**[- : : : -]**）
CFフル警告(**FuLL CF**)
CFエラー警告(**Err CF**)
CF未装填警告(**no CF**)
エラーコード(**Err**)
撮像素子の清掃中（**CLn**）

絞り数値

撮影可能枚数
WBブラケティング時の撮影可能枚数
セルフタイマー作動表示
バルブ露光時間

B/W モノクロ撮影

ドライブモード
- 1枚撮影
- 連続撮影
- セルフタイマー

AEB撮影

AFモード
- **ONE SHOT** ワンショットAF
- **AI FOCUS** AIフォーカスAF
- **AI SERVO** AIサーボAF

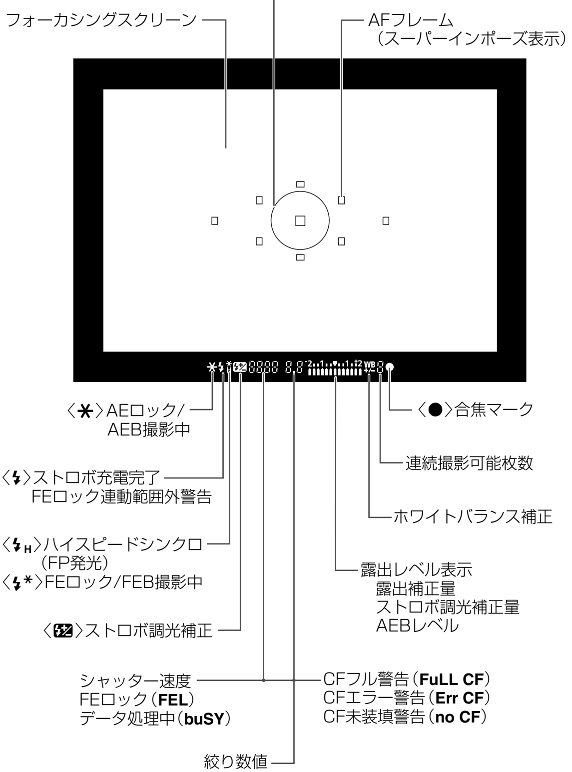
測光モード
- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光

露出レベル表示
- 露出補正量
- AEBレベル
- ストロボ調光補正量

CFカード書き込み経過表示

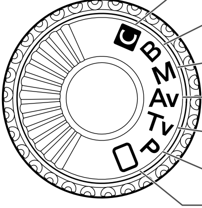
表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示



表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

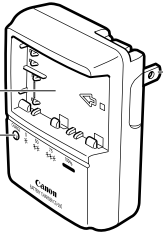
モードダイヤル



- C ：カメラユーザー設定（p.146）
- B ：バルブ（p.94）
- M ：マニュアル露出（p.88）
- Av ：絞り優先AE（p.86）
- Tv ：シャッター優先AE（p.84）
- P ：プログラムAE（p.82）
- □ ：**全自動**（p.44）

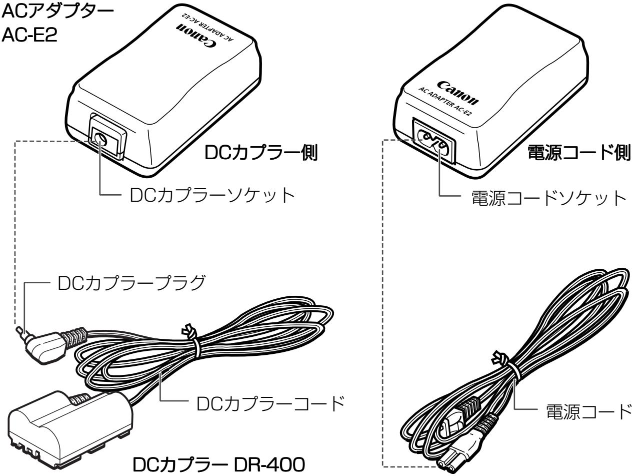
バッテリーチャージャー CG-580

バッテリーパックの充電器です。（p.20）



ACアダプターキット ACK-E2（別売）

家庭用電源でカメラを動かすときに使います。（p.24）

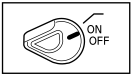


Li-ion

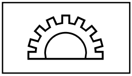
- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記の「キヤノン／キヤノン販売」のホームページで確認できます。
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店についてのお問い合わせは、以下へお願いします。
  - ・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  - ・有限責任中間法人 JBRC
    ホームページ：http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
  - ・「キヤノン／キヤノン販売」
    ホームページ：http://cweb.canon.jp/ecology/recycle5.html

リサイクル時のご注意：電池を分解しないでください。

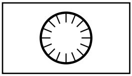
本使用説明書上のおことわり



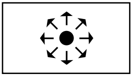
- 本文中の〈〉は、電源スイッチを示しています。
- 〈〉スイッチが〈ON〉または〈／￣〉の位置になっていることを前提に、操作方法を説明しています。



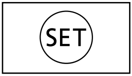
- 本文中の〈〉は、メイン電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉は、サブ電子ダイヤルを示しています。
- 〈〉操作は、〈〉スイッチが〈／￣〉の位置になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に〈〉を〈／￣〉にしてください。



- 本文中の〈〉は、マルチコントローラーを示しています。



- 本文中の〈SET〉は、設定ボタンを示しています。メニュー機能、カスタム機能の設定などに使用します。

- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
- （p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
- ページタイトル右の ★ マークは、〈□〉（全自動）では変更できない機能であることを示しています。
- メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- MENUは、メニュー機能で設定変更できることを示しています。
- （4）／（6）／（16）は、ボタンから指を離しても、その状態がタイマーの働きにより、それぞれ4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

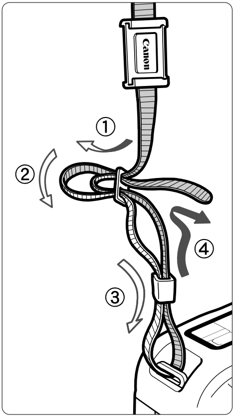
：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

1

撮影前の準備と基本操作

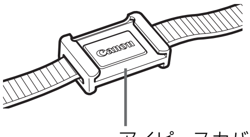
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。



ストラップ（吊りひも）の取り付け方

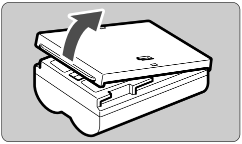
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。止め具の部分 のたるみを取り、引っぱっても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。（p.96）



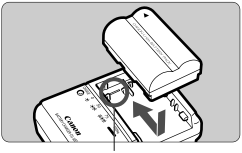
アイピースカバー

バッテリーを充電する



1 保護カバーを外す

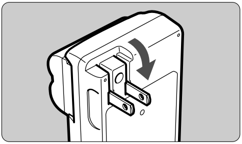
- バッテリーをカメラから取り出したときは、ショート防止のため必ずカバーを取り付けてください。



〈—〉マーク

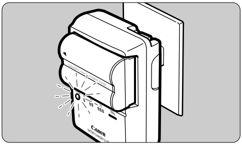
2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーチャージャーの〈—〉マークにバッテリーの先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす

- バッテリーチャージャーのプラグを矢印の方向に起こします。



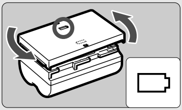
充電状態	赤ランプ
0～50%	1回／秒：点滅
50～75%	2回／秒：点滅
75～90%	3回／秒：点滅
90%以上	点灯

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、赤ランプが点滅します。
- ➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、次のとおりです。**
  BP-511A、BP-514：約100分
  BP-511、BP-512　：約90分
- バッテリーチャージャーに印刷されている数字と点は、左の表を図式化したものです。

- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512以外は充電しないでください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、カメラを使用しなくても微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。カメラを使用しないときは、バッテリーをカメラから取り出し、ショート防止用の保護カバーを取り付けて保管してください。カメラを使用するときは、必ずバッテリーを充電してから使用してください。
- フル充電して保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能低下の原因となることがあります。
- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512は、キヤノン製品専用です。キヤノン製品以外の充電器、製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

- **赤ランプが点灯してから、続けて約1時間充電を続けると、フル充電にすることができます。**
- 充電しておいたバッテリーパックも、少しずつ自然に放電しています。使用する当日、または前日に充電することをおすすめします。

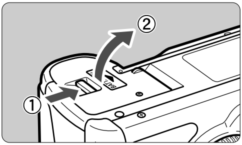


- バッテリーパックの保護カバーには、任意に取り付ける向きを変えることで、充電済みかそうでないかを自分で判別できるよう、窓がついています。
- 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜いてください。
- 充電時間は、周囲の温度やバッテリーの充電状態によって異なります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなることがあります。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下したときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

バッテリーを入れる／取り出す

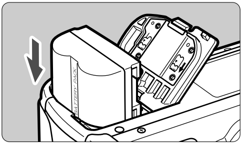
入れ方

充電したバッテリーパックBP-511Aをカメラに入れます。



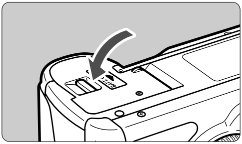
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 バッテリーを入れる

- バッテリーの接点を下にして入れてください。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

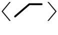


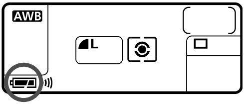
3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパックBP-514、BP-511、BP-512も使用できます。

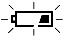
バッテリーチェックについて

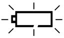
バッテリーの残量は、〈〉スイッチを〈ON〉または〈〉の位置（p.28）にしたときに、4段階で表示されます。



：バッテリーの容量は十分です。

：残量が少なくなっています。

：もうすぐバッテリー切れになります。

：バッテリーを充電してください。

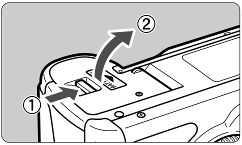
撮影可能枚数の目安

温度	撮影可能枚数
常温（+20℃）	約800
低温（0℃）	約400

● 撮影可能枚数は、フル充電のBP-511A使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

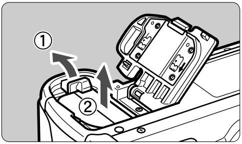
● 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
● 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数は少なくなります。
● シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
● BP-514使用時の撮影可能枚数は、表記枚数と同じになります。
● BP-511、BP-512使用時の撮影可能枚数は、常温で表記枚数の約75%になります。低温では表記数値とほぼ同じになります。

取り出し方



1 ふたを開ける

● レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

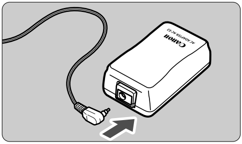


2 バッテリーを取り出す

● バッテリーロックレバーを矢印方向にスライドさせて、ロックを外し、バッテリーを取り出します。

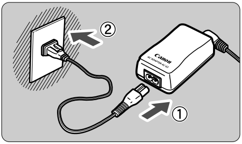
家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E2（別売）を使うと、家庭用電源を使用してバッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。



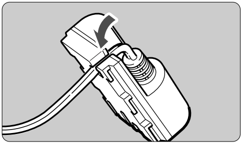
1 DCカプラーを接続する

- DC カプラーのプラグを AC アダプターのソケットに接続します。



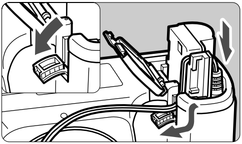
2 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。



3 コードを溝にはめ込む

- コードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。



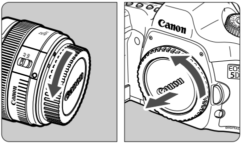
4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DCカプラーをロック位置まで入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

> カメラの〈⊝〉スイッチを〈ON〉または〈／￣〉の位置にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

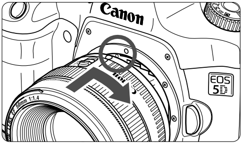
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方



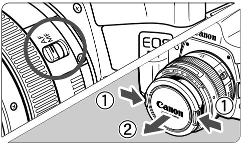
1 キャップを外す

● レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

● レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

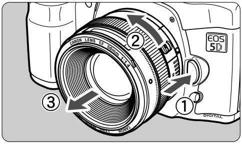


3 レンズの フォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

● 〈MF〉になっているとオートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す

取り外し方



レンズロ ック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

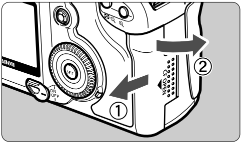
● 回転が止まるまで回してから、取り外します。

> レンズの取り付け／取り外しを行う際に、ゴミやホコリがマウント部からカメラ内部に入らないよう、十分に注意してください。

CF カードを入れる／取り出す

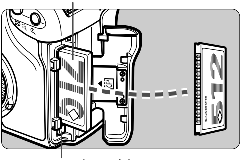
撮影した画像は、CFカード（別売）に記録されます。
CFカードには、厚さの異なるタイプ I、タイプ II がありますが、このカメラでは、どちらのタイプでも使用できます。また、マイクロドライブや2GB以上の大容量のCFカードも使用できます。

入れ方



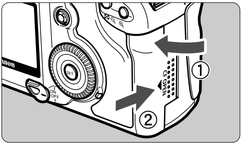
1 カバーを開ける

● カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。



2 CFカードを入れる

● キヤノン製 CF カードの使用をおすすめします。
● **CFカードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。**
図のようにCFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。
➡ CF カード取り出しボタンが飛び出します。



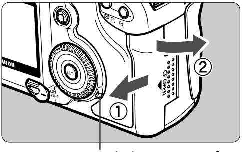


3 カバーを閉める

● カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
➡〈〉スイッチを〈ON〉または〈〉の位置にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数は、使用するCFカードの空き容量や、記録画質、設定したISO感度などにより変わります。

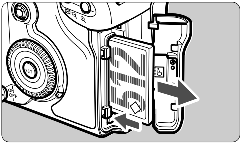
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 〈⊜〉スイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「**buSY**」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。



2 CFカードを取り出す

- CF カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ CFカードが出てきます。
- カバーを閉じます。

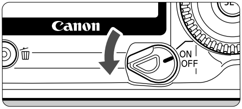
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、CFカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合によってはCFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。**
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
  ・CFカードスロットカバーを開ける
  ・バッテリーを取り出す
- 表示パネルに「**Err CF**（エラーシーエフ）」が表示されたときは、118ページを参照してください。
- 低容量のCFカードでは、画像サイズが大きくなると、CFカードに記録できないことがあります。
- マイクロドライブは、CFカードに比べると振動や衝撃に弱いため、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

メニュー機能の［**📷 カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、CFカードを入れ忘れたまま撮影することを防止できます。（p.97）

撮影の基本操作

電源スイッチ

このカメラは〈⏻〉スイッチを入れて初めて作動します。

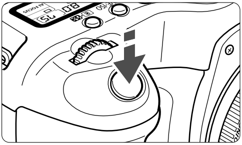


〈OFF〉：カメラは作動しません。
〈ON〉：カメラが作動します。
〈╱￣〉：カメラと〈◎〉が作動します。（p.30）

- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンなどを押すと再度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー機能の［🔧 **オートパワーオフ**］で変更することができます。（p.37）
- CF カードへの画像記録中に〈⏻〉スイッチを〈OFF〉にすると、あと何枚で画像記録が終わるかを表示パネルの〈▮〉の数で表示します。画像記録が終了すると、表示が消えて電源が切れます。

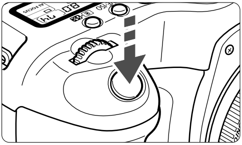
シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



半押し

AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます。（⏱4）



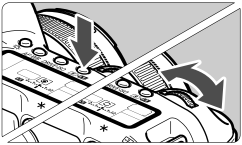
全押し

シャッターが切れて撮影されます。

- シャッターボタン半押し後のタイマー（⏱4）が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります（ダイレクトプリント出力中を除く）。
- シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために次の点に注意してください。また、『カメラの構え方』(p.42）もあわせてお読みください。
  ・カメラが動かないようにしっかり構えます。
  ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。

〈 〉による基本操作

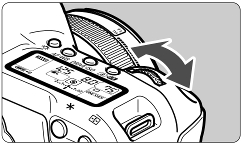
〈 〉は、おもに撮影に関する選択・設定に使用します。



(1) ボタンを押したあと、〈 〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF モード、ドライブモード、測光モード、AFフレームの選択・設定に使用します。



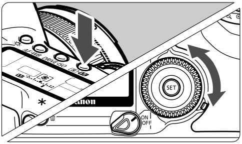
(2) 〈 〉のみを回す

表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

〈◎〉による基本操作

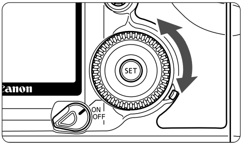
〈◎〉は、撮影に関する選択・設定と、液晶モニター表示内容の選択に使用します。撮影準備操作で〈◎〉を操作するときは、〈⊝〉スイッチを〈／￣〉の位置にしてください。



(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ISO感度、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定に使用します。
- 液晶モニター使用時は、メニュー機能の選択、再生時の記録画像の選択などに使用します。



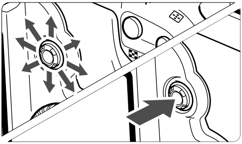
(2) 〈◎〉のみを回す

表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正や〈**M**〉モード時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈⊝〉スイッチが〈ON〉の位置でも行うことができます。

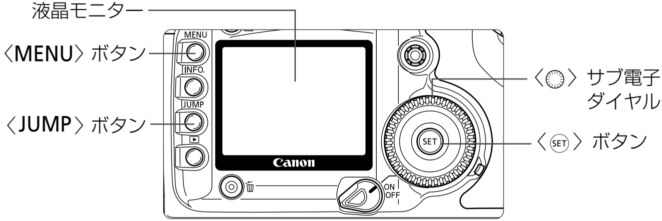
〈✣〉による操作

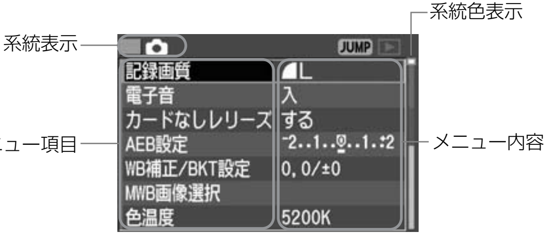


〈✣〉は8方向キーと、中央押しボタンの構造になっています。AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、拡大ズーム表示中の画面移動、ダイレクトプリント時のトリミング枠の移動に使用します。

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質やピクチャースタイル、日付/時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈◎〉、〈SET〉を使って行います。





メニュー画面は、項目の内容によって3系統に色分けされています。

アイコン	色	系統	説明
📷	赤	撮影系	撮影に関する項目
▶	青	再生系	撮影した画像の再生操作に関する項目
🔧	黄	セットアップ系	カメラの基本機能に関する項目

- 〈JUMP〉ボタンを押すと、各系統の先頭項目に移動します。
- 〈◎〉スイッチが〈ON〉の位置でも〈◎〉を使用することができます。
- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

メニュー機能の設定操作



1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。



2 メニュー項目を選ぶ

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
● 〈JUMP〉ボタンを押すと、各系統の先頭項目に移動します。



3 メニュー内容を選ぶ

● 〈◎〉を回して内容を選びます。



4 内容を設定する

● 〈SET〉を押すと設定されます。

5 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、設定が終了します。

● 〈□〉（全自動）では、表示されないメニュー項目があります。（p.33）
● メニュー機能の選択操作や、再生関連操作を〈✲〉で行うこともできます。
● この項以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
● 撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に、メニュー操作を行うこともできます。

メニュー機能一覧

〈📷〉撮影系（赤）

		参照頁
記録画質	◢L／▟L／◢M／▟M／◢S／▟S／RAW／ RAW+◢L／+▟L／+◢M／+▟M／+◢S／+▟S	48
電子音	入／切	97
カードなしレリーズ	する／しない	97
AEB設定	1/3段ステップ、±2段	91
WB補正/BKT設定	B/A/M/G寄り各色9段／B/A、M/G方向1段ステップ±3段	62,63
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	60
色温度	2800～10000Kの範囲で設定（100K単位）	61
色空間	sRGB／Adobe RGB	65
ピクチャースタイル	スタンダード／ポートレート／風景／ニュートラル／ 忠実設定／モノクロ／ユーザー設定3種	51,53, 56

〈▶〉再生系（青）

画像プロテクト	画像の保護	115
画像回転	画像の縦横回転	111
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	137
オートプレイ	画像の自動再生	110
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	102
AFフレーム	表示する／表示しない	106
ヒストグラム	輝度／RGB	107

- この項目は、〈□〉（全自動）では表示されません。
- 〈□〉（全自動）では、記録画質：RAW、RAW＋JPEGは表示されません。

〈🔧〉セットアップ系（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	37
縦横自動回転表示	入／切	103
液晶の明るさ	5段階調整	104
日付/時刻	日付/時刻の設定	38
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	68
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	66
言語	15言語（英語／ドイツ語／フランス語／オランダ語／デンマーク語／フィンランド語／イタリア語／ノルウェー語／スウェーデン語／スペイン語／ロシア語／簡体中国語／繁体中国語／韓国語／日本語）	36
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	114
通信設定	印刷/PTP／PC接続	121
CFカード初期化	記録内容を初期化して消去	118
カスタム機能(C.Fn)	カメラの機能を細かく設定する	147
設定解除	カメラ設定初期化（カメラ設定を初期状態にする） カスタム機能一括解除（カスタム機能をすべて解除する） カメラ設定登録解除（モードダイヤルの〈C〉の設定を初期状態にする）	35 148 146
カメラ設定登録	モードダイヤルの〈C〉に、現在のカメラ設定を登録	146
撮像素子の清掃	撮像素子の清掃時に選択	40
画像転送(LAN)設定	ワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E1/E1A使用時に表示	—
ファームウェア Ver.	ファームウェア変更時に選択	—

● ▭ この項目は、〈□〉（全自動）では表示されません。

液晶モニターについて

● 液晶モニターをファインダーの代わりとして見ながら撮影することはできません。

● 液晶モニターの明るさを5段階に調整することができます。（p.104）

カメラの各機能設定を初期状態にするときは★



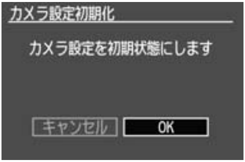
1 ［設定解除］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［ 設定解除］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［カメラ設定初期化］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと初期状態になります。

➡ カメラの状態は次の表のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
AFフレームの選択	自動選択
測光モード	評価測光
ドライブモード	1枚撮影
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	設定状態のまま

記録画像関係

記録画質	◢L
ISO感度	100
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB
色温度	5200K
WB補正	解除
WB-BKT	解除
ピクチャースタイル	スタンダード

● ピクチャースタイルでは、各項目で設定変更した内容も初期状態に戻ります。

MENU 表示言語を設定する

液晶モニターに表示する言語を15言語の中から選ぶことができます。



1 [言語] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [言語] を選び、〈SET〉を押します。

➡ 言語設定画面になります。



2 言語を設定する

- 〈◎〉を回して希望する言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

English	英語
Deutsch	ドイツ語
Français	フランス語
Nederlands	オランダ語
Dansk	デンマーク語
Suomi	フィンランド語
Italiano	イタリア語
Norsk	ノルウェー語
Svenska	スウェーデン語
Español	スペイン語
Русский	ロシア語
简体中文	簡体中国語
繁體中文	繁体中国語
한국어	韓国語
日本語	日本語

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を設定することができます。電源が自動的に切れないようにするときは、[切] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、撮影準備状態になります。



1 [オートパワーオフ] を選ぶ

● 〈◎〉を回して [🔧 オートパワーオフ] を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

● 〈◎〉を回して希望する時間を選び、〈SET〉を押します。

● オートパワーオフで電源が切れた状態から撮影準備状態に戻すことのできるボタンは、シャッターボタンのほかに〈DRIVE･ISO〉ボタンや〈MENU〉ボタンなども有効です。なお、〈✥〉、〈🗑〉、〈JUMP〉ボタンを押しても撮影準備状態には戻りません。
● オートパワーオフ [切] の設定で、液晶モニターを表示したまま放置すると、約30分で液晶モニターの表示を消します。

MENU 日付／時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。



1 ［日付/時刻］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［Yf 日付/時刻］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 日付/時刻設定画面になります。



2 日付/時刻を設定する

- 〈SET〉を押すたびにオレンジ色の枠が □ と ⇕ に切り換わります。
- □ の状態で〈◎〉を回して修正する日付/時刻を選び、〈SET〉を押します。
- ⇕ の状態で〈◎〉を回して数字や日付の並び順を変更し、〈SET〉を押します。



3 設定を終了する

- □ の状態で〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

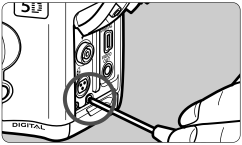
➡ 日付 / 時刻が設定され、メニューに戻ります。このとき、設定した「分」のゼロ秒から時計が動き始めます。

> ❶ 撮影した画像には撮影した日付/時刻が一緒に記録されます。日付/時刻が設定されていないと、撮影した日付/時刻が正しく記録されませんので、正しく設定してください。

日付／時計機能用電池を交換する

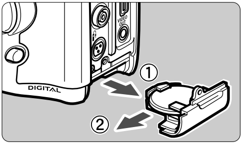
日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。バッテリーを交換したときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、次の手順で新しいCR2016リチウム電池に交換してください。
日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。

1 〈⊝〉スイッチを〈OFF〉にする



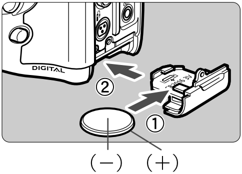
2 電池ホルダーのねじを取り外す

- 小型のプラスドライバーを使用します。
- 取り外したねじは、なくさないよう注意してください。



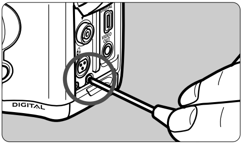
3 電池ホルダーを取り外す

- 電池は②の方向に押し出します。



4 電池を入れ換えてホルダーを入れる

- ＋－を正しく合わせて入れます。



5 電池ホルダーのねじを締める

日付/時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

MENU 撮像素子を清掃する★

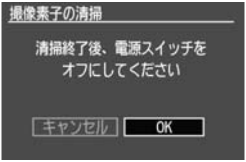
撮像素子は、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分で、表面にゴミやホコリなどが付くと、撮影した画像に黒い点などが写り込むことがあります。このようなときは、次の手順で清掃してください。
なお、電源は、ACアダプターキットACK-E2（別売／p.164）による家庭用電源の使用をおすすめします。バッテリーを使用するときは、必ず残量が十分にあるバッテリーを使用してください。

1 DCカプラー（p.24）**かバッテリーを入れて、〈〉スイッチを〈ON〉にする**



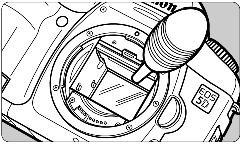
2 [撮像素子の清掃] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**撮像素子の清掃**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ バッテリー使用時は、十分な残量があるときに手順3の画面になります。
- バッテリー残量が不足しているときは、警告画面が表示され次の操作には進めません。バッテリーを充電するか、DCカプラーを使用して、もう一度手順1からやり直してください。



3 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。
- ➡ 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。



4 撮像素子を清掃する

- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面のほこりを吹き飛ばします。

5 清掃を終了する

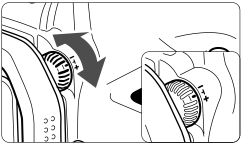
- 〈⊖〉スイッチを〈OFF〉にします。
- ➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じて、ミラーが下がります。
- 〈⊖〉スイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります。**
  - **・〈⊖〉スイッチ〈OFF〉**
  - **・CFカードスロットカバーを開ける**
  - **・バッテリー室ふたを開ける**
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れると、シャッターが閉じて、シャッター幕や撮像素子が損傷する原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、表面に傷が付くことがあります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- バッテリー残量が少なくなると、電子音が鳴り、表示パネルの〈▭〉が点滅します。〈⊖〉スイッチを〈OFF〉にして、残量が十分にあるバッテリーに交換し、初めからやり直してください。
- カメラにバッテリーグリップ BG-E4（別売）を装着して、電源に単3形電池使用しているときは、撮像素子の清掃はできません。ACアダプターキット ACK-E2（別売）を使用するか、残量が十分にあるバッテリーを使用してください。

なお、ゴミが取りきれない場合は、別紙の修理サービスご相談窓口にお申し付けください。

鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することで、メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は－3～＋1dptの範囲で行うことができます。



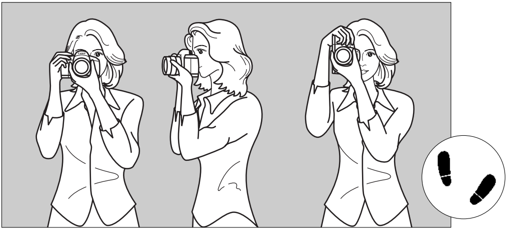
視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AFフレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準（－1dpt）の位置です。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



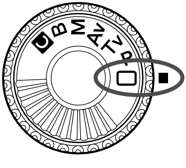
横位置　　　縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

2

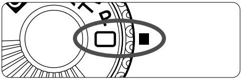
カメラまかせの自動撮影

この章ではモードダイヤルの〈□〉（全自動）を使って簡単に撮影する方法を説明しています。〈□〉では、AFモードやドライブモードなどの機能が自動設定されますので、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈AF･WB〉〈ISO〉〈⦿･⚡〉〈⊡〉〈✱〉ボタン、〈⁜〉などの撮影に関する操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。



□全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がありませんので、安心して気軽に撮ることができます。9つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな画像を撮影できます。



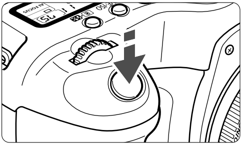
1 モードダイヤルを〈□〉にする

➡ AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。



2 被写体にAFフレームを合わせる

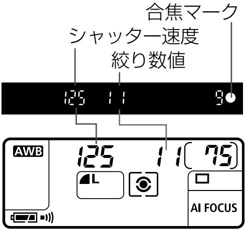
● 9つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントを合わせます。



3 ピントを合わせる

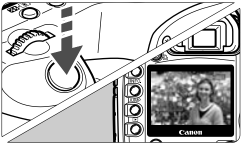
● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。



4 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。



5 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

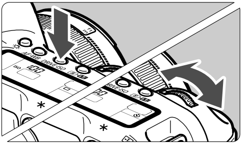
● CF カードに記録されている画像を再生するときは、〈▶〉ボタンを押します。(p.105)

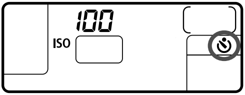
● レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズームリングを動かすと、ピントがズレることがあります。
● CFカードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内に CF フル警告「**FuLL CF**」が表示され、撮影できなくなります。残量のあるCFカードに入れ換えてください。
● 他社製のレンズを使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。

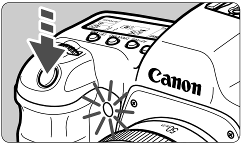
● AFでピントが合うと同時に、ピントと露出がロックされます。
● 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、撮影できません。(p.78)
● 複数のAFフレームが同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったすべての位置にピントが合っています。
● ピントが合ったときの電子音を、鳴らないようにすることができます。(p.97)
● 撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を、メニュー機能の［▶ **撮影画像の確認時間**］で変更することができます。(p.102)
● 任意の AF フレームでピント合わせをしたいときは、モードダイヤルを〈**P**〉にしたあと、『AFフレームの選択』(p.75) でAFフレームを任意選択します。

⏲セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。







1 〈DRIVE･ISO〉ボタンを押す（6）

2 〈⏲〉を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⌒〉を回して、〈⏲〉を選びます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、合焦マーク〈●〉の点灯と露出表示を確認します。

4 撮影する

- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- ➡ 電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅を始め、約10秒後に撮影されます。
始めの8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音
／セルフタイマーランプ遅い点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音
／セルフタイマーランプ点灯
- ➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

- セルフタイマー撮影するときは、三脚を使用してください。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈DRIVE･ISO〉ボタンを押します。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（p.77）して撮影します。
- 電子音を鳴らないようにすることができます。（p.97）

3

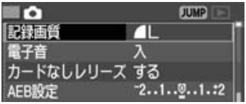
画像に関する設定

この章では、記録画質、ピクチャースタイル、ISO感度、ホワイトバランス、色空間といった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

- 〈□〉（全自動）では、この章の中の、記録画質（RAW、RAW+JPEGを除く）の設定、画像番号設定方式の選択、フォルダの選択と作成、カメラの設定内容の確認のみが行えます。
- ページタイトル右の★マークは、〈□〉（全自動）では変更できない機能であることを示しています

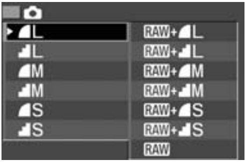
MENU 記録画質を設定する

◢L／▟L／◢M／▟M／◢S／▟Sは、汎用性の高いJPEG（ジェイペグ）画像を記録します。RAWは撮影後、付属のソフトウェアで現像処理を行う必要があります。RAW+◢L／+▟L／+◢M／+▟M／+◢S／+▟S（RAW+ JPEG）は、RAW画像とJPEG画像を同時記録します。なお、〈□〉（全自動）では、**RAW、RAW+JPEGは選択できません。**



1 ［記録画質］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［● **記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 記録画質設定画面になります。



2 記録画質を設定する

- 〈◎〉を回して希望する記録画質を選び、〈SET〉を押します。

記録画質を選ぶときの目安

記録画質	画像タイプ（拡張子）	記録画素数	印刷サイズ
◢L（ラージファイン）	JPEG（.JPG）	4368×2912（約1270万）	A3以上
▟L（ラージノーマル）			
◢M（ミドルファイン）		3168×2112（約670万）	A4～A3
▟M（ミドルノーマル）			
◢S（スモールファイン）		2496×1664（約420万）	A4以下
▟S（スモールノーマル）			
RAW（ロウ）	RAW（.CR2）	4368×2912（約1270万）	A3以上

- ◢（ファイン）、▟（ノーマル）は、画像の圧縮率のことです。画質優先のときは低圧縮率の〈◢〉を、撮影枚数優先のときは高圧縮率の〈▟〉を選びます。
- RAW＋JPEGの同時記録では、RAWとJPEGの画像を同じフォルダに同じ画像番号で保存します。

記録画質に対する1枚のサイズと撮影可能枚数の目安

記録画質	1枚のサイズ（約MB）	撮影可能枚数
L（ファイン）	4.6	101
L（ノーマル）	2.3	196
M（ファイン）	2.7	168
M（ノーマル）	1.4	319
S（ファイン）	2.0	233
S（ノーマル）	1.0	446
RAW＋L（ファイン）	—	22
RAW＋L（ノーマル）		25
RAW＋M（ファイン）		24
RAW＋M（ノーマル）		26
RAW＋S（ファイン）		25
RAW＋S（ノーマル）		27
RAW	12.9	29

- 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数（p. 50）はキヤノン純正512MB CFカード使用時の枚数です。
- 1 枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：[**スタンダード**] 設定時）によります。なお、1 枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体、撮影モード、ISO感度、ピクチャースタイルなどにより異なります。
- モノクロ撮影時（p.51）は、1枚のサイズが小さくなり、撮影可能枚数が多くなります。
- 撮影可能枚数は、表示パネルで確認することができます。

RAWについて

RAWはパソコンでの現像処理を前提としているため、専門的な知識が必要ですが、付属ソフトウェアの現像機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。現像処理とは、RAWの画像データに対して、ホワイトバランスやコントラストなどの画像調整を行って、使用目的に最適な画像を創り出すことをいいます。

なお、RAW画像は、ダイレクトプリントや印刷指定（DPOF）ができません。

連続撮影可能枚数について

記録画質により、連続して撮影できる枚数（連続撮影可能枚数）が異なります。各記録画質での連続撮影可能枚数の目安は次のとおりです。なお、高速書き込みタイプのCFカード使用時は、撮影条件により、表記枚数以上の連続撮影ができることがあります。

記録画質	◢L	▟L	◢M	▟M	◢S	▟S	RAW	RAW＋JPEG
連続撮影可能枚数	60	150	120	319*	200	446*	17	12

*CFカードがいっぱいになるまで連続撮影できます。



連続撮影可能枚数

- そのときの撮影条件で、あと何枚連続撮影できるかを、ファインダー内右下で確認することができます。
- 「**9**」と表示されているときは、9枚以上または9枚の連続撮影ができます（「**6**」と表示されているときは、6枚）。
- 撮影を行って、枚数が9枚より少なくなると、数字が「**8**」「**7**」...と小さくなります。撮影を中断すると、数字が大きくなっていきます。

撮影したすべての画像の現像処理が終了すると（CF カードに書き込まれると）、上の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

- WBブラケティング撮影時（p.63）は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 連続撮影可能枚数は、ドライブモードが〈□〉（1 枚撮影）、〈⏲〉でも表示されます。なお、CFカードを入れていないときにも枚数が表示されますので、CFカードが入っていることを確認してから撮影してください。

MENU ピクチャースタイルを選択する★

ピクチャースタイルは、写真表現の目的別に用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。
それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容を調整することができます。



1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ピクチャースタイル］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ピクチャースタイル選択画面になります。



2 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。

各ピクチャースタイルの画像特性について

●スタンダード

鮮やかで、くっきりした画像になります。〈□〉（全自動）では、すべてこの設定で撮影されます。

●ポートレート

肌がきれいで、ややくっきりした画像になります。
52ページの［色あい］を変えると、肌色を調整することができます。

●風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした画像になります。

●ニュートラル

自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな画像になります。シャープネスはかかっていません。

●忠実設定

5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した画像が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるよう色調整されます。シャープネスはかかっていません。

●モノクロ

白黒画像にします。

- 自然な感じの白黒画像にするためには、適切なホワイトバランスで撮影してください。
- ［**モノクロ**］に設定して撮影したJPEGの白黒画像を、パソコンのソフトウェアなどを用いて、カラー画像にすることはできません。

記録画質RAWで［**モノクロ**］に設定して撮影したときは、付属のソフトウェアでカラー画像を生成することもできます。

●ユーザー設定1～3

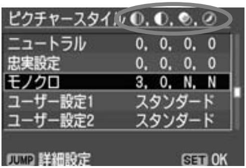
［**ポートレート**］や［**風景**］などを登録し、好みに合わせて調整することができます。（p.56）登録されていないときは、スタンダードの初期設定と同じ内容で撮影されます。

ピクチャースタイル選択画面について

ピクチャースタイル選択画面の右上にある記号は、各ピクチャースタイルに設定されている、シャープネス／コントラスト／色の濃さ／色あい／フィルター効果／調色の内容を示しています。

数字は、シャープネス／コントラストなどの設定値を示しています。





記号の意味

	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

MENU ピクチャースタイルを調整する★

それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を調整することができます。[**モノクロ**］の調整については、54ページを参照してください。



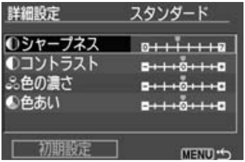
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ピクチャースタイル選択画面になります。



2 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**モノクロ**］以外のピクチャースタイルを選び、〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。



3 内容を設定する

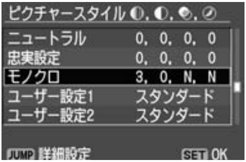
- 〈◎〉を回して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、ピクチャースタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス	[0]：輪郭強調・控えめ	[+7]：輪郭強調・強め
コントラスト	[-4]：明暗差・弱	[+4]：明暗差・強
色の濃さ	[-4]：薄め	[+4]：濃いめ
色あい	[-4]：肌色が赤め	[+4]：肌色が黄色め

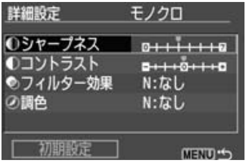
モノクロの調整

［**シャープネス**］と［**コントラスト**］のほかに、［**フィルター効果**］、［**調色**］（p.55）を設定することができます。



1 ［モノクロ］を選ぶ

- 51ページの手順2で［**モノクロ**］を選び、〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。

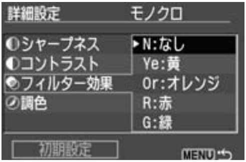


2 内容を設定する

- 〈◎〉を回して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈◎〉を回して効果の度合いや内容を設定し、〈(SET)〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、ピクチャースタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。
- 撮影準備状態に戻ると、表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

フィルター効果

白黒フィルムで写真撮影を行うときのフィルターワークをデジタル画像で再現したものです。使用するフィルター色と同じ（近接した）色を明るくし、補色を暗くした白黒画像を撮影することができます。

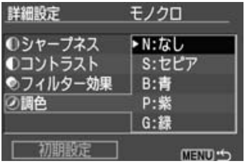


フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、白黒画像に設定した色を付けてCFカードに記録します。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。



［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

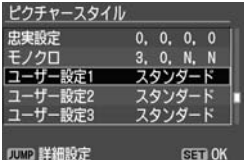
MENU ピクチャースタイルを登録する★

ピクチャースタイルの［**ユーザー設定 1**］から［**ユーザー設定 3**］に、［**ポートレート**］や［**風景**］などを登録し、好みに合わせて調整することができます。シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のピクチャースタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属ソフトウェアから設定したピクチャースタイルを選択するときにも使用します。



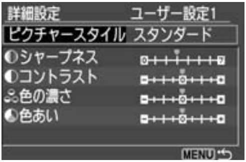
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ ピクチャースタイル］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ピクチャースタイル選択画面になります。



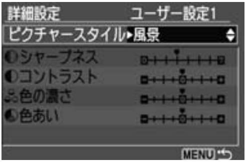
2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。

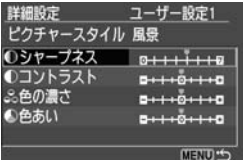


3 基本にするピクチャースタイルを選ぶ

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

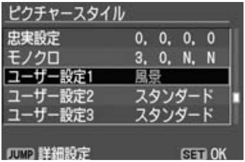


- 〈◎〉を回して基本にするピクチャースタイルを選び〈SET〉を押します。
- 付属ソフトウェアから設定されたピクチャースタイルがあるときは、この操作で選択します。



4 内容を設定する

● 〈◎〉を回して［**シャープネス**］などの項目を選び〈SET〉を押します。
● 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.53～55）を参照してください。



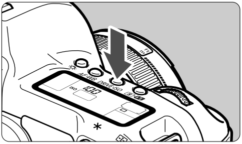
● 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、ピクチャースタイル選択画面に戻ります。
➡［**ユーザー設定＊**］の右に、基本にしたピクチャースタイルが表示されます。
➡［**シャープネス**］などの項目を初期設定から変更すると、ピクチャースタイルの名称が青色で表示されます。

ピクチャースタイルの登録操作について

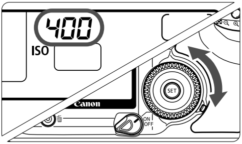
例えば、［**ユーザー設定1**］にピクチャースタイルを登録したあと、再度［**ユーザー設定1**］の内容を変更するために56ページ手順3の操作を行うと、前に設定していた内容が消えて初期設定に戻ります。
設定内容を変更したくないときは、この操作を行わないよう注意してください。

ISO ISO感度の設定★

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなることがあります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細かな画像が撮影できます。
このカメラでは、ISO感度を100〜1600まで、1/3段ステップで設定することができます。
なお、〈□〉(全自動)では、撮影状況に応じてISO100〜400の間で、ISO感度が自動設定されます。



1 〈DRIVE･ISO〉ボタンを押す(⏱6)
- ➡ 表示パネルに現在設定されている感度が表示されます。
- ● 〈□〉(全自動)のときは、表示パネルに「**Auto**」と表示されます。



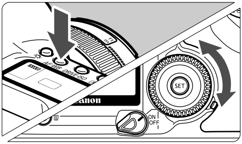
2 ISO感度を設定する
- ● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

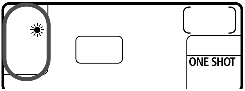
- ● ISO感度を高くしたり、高温下で使用すると、画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。
- ● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

- ● カスタム機能C.Fn-08[**ISO感度拡張**]を[**1:する**]に設定すると(p.151)、「**L**」(ISO50相当)と「**H**」(ISO3200相当)も選択できるようになります。
- ● 〈DRIVE･ISO〉ボタンを押すと、ファインダー内にも現在設定されているISO感度、または「**Auto**」が表示されます。

WB ホワイトバランスを設定する★

通常は、〈AWB〉で最適なホワイトバランスが自動設定されます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。〈□〉(全自動)では〈AWB〉に自動設定されます。





1 〈AF·WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

表示	モード	色温度（約・K）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
⌂	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
☀	白熱電球	3200
☰	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	6000
◢	マニュアル*	2000～10000
K	色温度	2800～10000

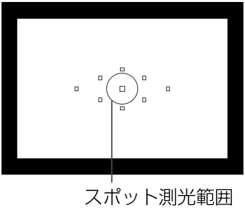
* 手動で撮影環境に最適な設定をするときに設定します。(p.60)

ホワイトバランスについて

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青)の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなります。人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色あいで撮影できます。このカメラの〈AWB〉は、撮像素子を使用して行います。

MENU マニュアルホワイトバランス★

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、その画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。



1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動でピントを合わせます。（p.78）
- どのホワイトバランス設定（p.59）でも構いません。
- 白い被写体が標準露出になるように撮影します。



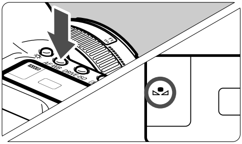
2 [MWB画像選択] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ マニュアルホワイトバランス設定画面になります。



3 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ホワイトバランスデータが取り込まれ、メニューに戻ります。



4 マニュアルWBを選ぶ

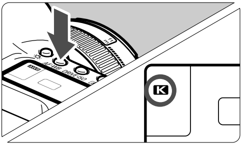
- メニューを終了してから、〈AF･WB〉ボタンを押します。
- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、〈MWB〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、アンダーまたはオーバーだと、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.51）は、手順3で選択できません。

白い被写体の代わりに 18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

MENU 色温度を直接設定する★

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。



1 〈AF･WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 色温度を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、〈K〉を選びます。



3 メニューの［色温度］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**📷 色温度**］を選び、〈SET〉を押します。

4 色温度を設定する

- 〈◎〉を回して希望する色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2800～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄りの補正）を行ってください。
- カラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

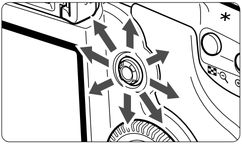
MENU ホワイトバランスを補正する★

設定しているホワイトバランスモードの色温度を補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換用フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解されている方におすすめします。

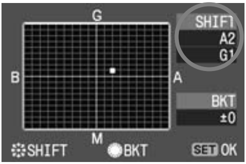


1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 **WB補正/BKT設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。



設定例：A2, G1



2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を上下左右、斜め方向に操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- ホワイトバランス補正を解除するときは、〈✣〉を操作して、「■」の位置を座標の中心（「**SHIFT**」を「**0, 0**」の表示）にします。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

- ホワイトバランス補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバーの1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します。（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表わすときに使用される単位）
- WBブラケティングやAEBと組み合わせて撮影することができます。
- 手順2で〈◎〉を回すと、WBブラケティングの設定になります。（p.63）

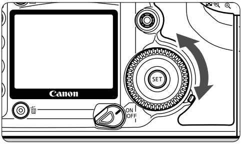
MENU ホワイトバランスを自動的に変えて撮る★

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの色温度を基準に、B（ブルー）とA（アンバー）寄りの色あい、またはM（マゼンタ）とG（グリーン）寄りの色あいに補正した画像を記録します。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。補正幅は1段ステップ±3段です。



1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

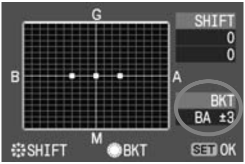
- 〈◎〉を回して［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。



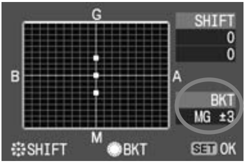
2 ブラケティングを設定する

- 〈◎〉を回して、ブラケティング方向とブラケティングレベルを設定します。
- 〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。〈◎〉を右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- 設定できるブラケティングレベルは､B/A方向、M/G方向ともに1段ステップ、±3段です。（B/A方向とM/G方向を同時に設定することはできません。）
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、ブラケティングレベルが表示されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

B/A方向±3段のとき



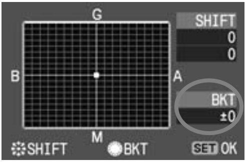
M/G方向±3段のとき



3 撮影する

➡ B/A 方向のブラケティングが設定されているときは、基準WB、B（ブルー）寄り、A（アンバー）寄りの順に、M/G方向のブラケティングが設定されているときは、基準WB、M（マゼンダ）寄り、G（グリーン）寄りの順に3枚の画像がCFカードに記録されます。

ホワイトバランスブラケティングの解除



● 手順2の操作で、「**BKT**」を「**±0**」（「■ ■ ■」を「■」（1点））にします。

WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。

● WBブラケティングを設定すると、表示パネルのホワイトバランスマークが点滅し、撮影可能枚数が約1/3になります。
● 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもCFカードへの画像記録時間が長くなります。
● ホワイトバランス補正やAEBと組み合わせて撮影することができます。AEBとの組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
● 「**BKT**」は、Bracketing（ブラケティング）の略です。

MENU 色空間を設定する★

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選択することができます。なお、一般的な撮影には、sRGBをおすすめします。〈□〉（全自動）ではsRGBに自動設定されます。



1 ［色空間］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- 〈◎〉を回して［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

おもに商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（PDF）を参照してください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。
なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成されて、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダを作成する



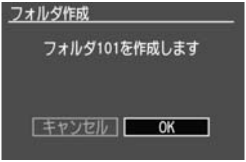
1 フォルダ作成画面を表示する

- 〈◎〉を回して［**フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ フォルダ選択／作成画面が表示されます。



2 ［フォルダ作成］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**フォルダ作成**］を選び、〈SET〉を押します。
- フォルダ作成画面が表示されます。



3 フォルダを作成する

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ フォルダが作成されます。

- ひとつのフォルダに最大9999画像保存します。
- 選択しているフォルダの中に画像番号 9999 の画像が保存されると、自動的に新しいフォルダが作られ、新しいフォルダに画像が保存されます。
- フォルダは、最大900個作ることができます。

フォルダを選択する



- フォルダ選択／作成画面が表示された状態で、〈◎〉を回してフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 「**100EOS5D**」はフォルダ番号で、その右端の数字は、フォルダ内の画像枚数を示しています。

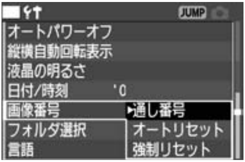
画像を再生するフォルダは選択できません。

パソコンを使ったフォルダ作成

まず、メモリーカードを開いたところに**Dcim**という名称のフォルダを作ります。次に Dcim フォルダを開いたところに撮影画像を保存するフォルダを、必要な数だけ作ります。
撮影画像を保存するフォルダの名称は、**100ABC_D** というように、100〜999までのフォルダ番号 3桁に続けて、必ず文字数5 つで名称をつけます。使用できる文字は、半角アルファベットA〜Z（大文字、小文字混在可）、半角の_（アンダーバー）です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（**100ABC_C**、**100ABC_D** など）をつけたときもカメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の設定方式

画像番号は、フィルムカメラのフィルムのコマ番号に相当するもので、〔**通し番号**〕と〔**オートリセット**〕〔**強制リセット**〕の3種類があります。撮影した画像は、自動的に0001～9999までの画像番号が付けられて、選択したフォルダに保存されます。



1 〔画像番号〕を選ぶ

- 〈◎〉を回して〔**ff 画像番号**〕を選び、〈SET〉を押します。

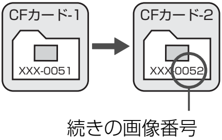
2 番号の設定方式を選ぶ

- 〈◎〉を回して〔**通し番号**〕または〔**オートリセット**〕、〔**強制リセット**〕を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

CFカードを交換しても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像の画像番号が重複しないため、画像をパソコンでまとめて管理するようなときに有効です。ただし、すでに画像が記録されているCFカードに入れ換えたときは、その中に入っている画像の最大画像番号と、最後に撮影した画像の画像番号を比較して、数の大きい方を続きの画像番号とします。

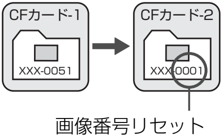
CFカードを交換した場合



オートリセット

CFカードを交換すると、画像番号が初期値（**0001**）に戻ります。撮影した画像の画像番号が、**0001**から始まりますので、CFカード単位で分類したいときなどに有効です。ただし、すでに画像が記録されているCFカードに入れ換えたときは、その中に入っている画像の最大画像番号に続いた画像番号となります。

CFカードを交換した場合



強制リセット

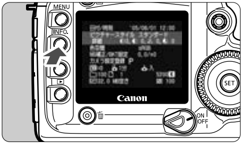
自動的に新しいフォルダを作成して、画像番号を初期値（**0001**）に戻します。撮影画像は、この新しいフォルダに保存されます。画像番号の付けかた（オートリセット／通し番号）は、強制リセット前の設定となります。

画像番号が9999になると、表示パネルとファインダー内に「**FuLL**」と表示されます。新しいCFカードに交換してください。

ファイル名は、JPEG画像、RAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW画像が「 .CR2」になります。

INFO.カメラの設定内容を確認する

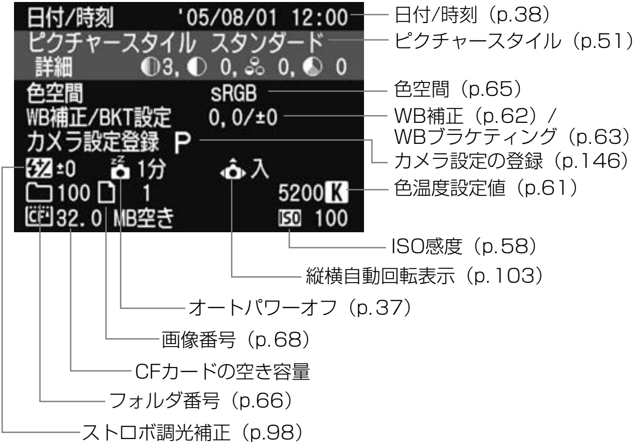
撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている内容が液晶モニターに表示されます。



設定内容を表示する

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにカメラの設定内容が表示されます。
- もう一度〈INFO.〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。

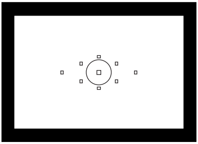
設定内容表示



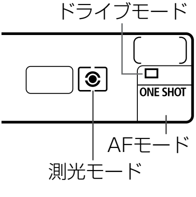
画像再生時の画像情報については、『撮影情報表示について』（p.106）を参照してください。

4

AF/ 測光 / ドライブの設定



ファインダー内には、9つのAFフレームが配置されています。適切なAF フレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図にあわせてオートフォーカスの作動特性を選択できます。

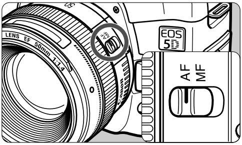


測光モードには、評価測光、部分測光、スポット測光、中央部重点平均測光があります。ドライブモードには、1枚撮影、連続撮影、セルフタイマーがあります。撮影状況や撮影意図にあわせて選択してください。

- ページタイトル右の ★ マークは、〈□〉（全自動）では変更できない機能であることを示しています。
- 〈□〉（全自動）では、AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモードが自動設定されます。

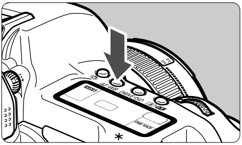
AF AFモードの選択★

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適している「ワンショットAF」、動いている被写体の撮影に適している「AIサーボAF」、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換える「AIフォーカスAF」の3種類があります。〈□〉（全自動）では、AIフォーカスAFが自動設定されます。

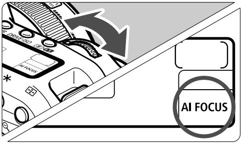


1 レンズのフォーカス モードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを〈□〉（全自動）以外にする



3 〈AF·WB〉ボタンを押す（⏱6）



4 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

  ONE SHOT：ワンショットAF
  AI FOCUS：AIフォーカスAF
  AI SERVO：AIサーボAF

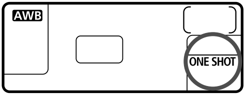
エクステンダー（別売）を併用したときに、開放絞り数値がF5.6を超えるレンズでは、AF撮影できません。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

止まっている被写体を撮るときはワンショットAF



AFフレーム　合焦マーク

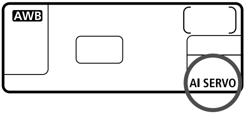


シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

- ➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬赤く光ります。同時にファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- ➡ 評価測光ではピントが合うと、同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと、露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影（p.77）ができます。

ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ)』（p.78）を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAIサーボAF

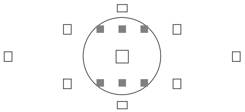


シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

- ● 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。
- ➡ 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- ➡ 露出は撮影の瞬間に決まります。

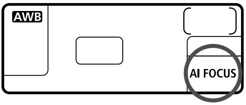
*動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、または遠ざかっていくときに、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。



- AF フレーム自動選択のときは、初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。スポット測光範囲の内側には、AF フレーム表示はありませんが、AIサーボAF用に6つのアシスト（補助）測距点が配置されています（図の■部分）。そのため、AF中に被写体が中央AFフレームから少し外れてもピントを合わせ続けます。また、AF中に被写体が中央のAFフレームから大きく外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- AFフレームを任意選択しているときは、選択したAF フレームで動体予測を行います。

AFモードを自動的に切り換えるAIフォーカスAF



AI フォーカスAF は、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AI サーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

ワンショットAF で被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカス AFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

⊡ AFフレームの選択★

AFフレームとはピントを合わせる枠のことです。AFフレームの選択方式には、「自動選択」と「任意選択」があります。
〈□〉（全自動）では自動選択に設定されます。

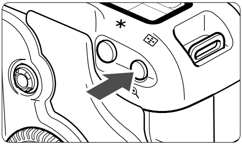
自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAF フレームを選択してピントを合わせます。ファインダー内の**すべてのAFフレームを赤く点灯させます**。

任意選択

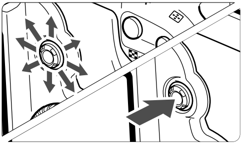
9つのAFフレームから、任意の1点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたいときや、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたいときに便利な機能です。

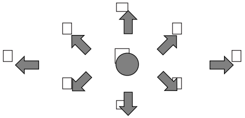
マルチコントローラーによる選択



1 〈⊡〉ボタンを押す（⏲6）

➡ 現在選択されているAFフレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

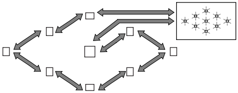




2 AFフレームを選択する

- ファインダー内または表示パネルを見ながら、〈✥〉を操作します。
- 〈✥〉を倒した方向に対応したAFフレームが選択されます。
- 〈✥〉をまっすぐ押すと、中央の AF フレームが選択されます。
- 現在選択されているAF フレームと同じ方向に〈✥〉を操作すると、すべてのAFフレームが点灯して自動選択になります。

電子ダイヤルによる選択



● 〈⊞〉ボタンを押したあと、〈⚙〉または〈◎〉を回すと、左図のように循環します。

● 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。
自動選択、中央、右、上

● EOS専用外部ストロボ使用時にAF補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

使用レンズの明るさとAF測距について

EOS 5DのAFは、F2.8より明るいレンズを使用すると、より高精度なAFピント合わせを行うことができます。

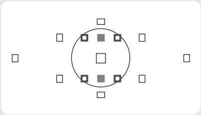
F2.8より明るい大口径レンズ使用時*

中央AFフレームでより高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。十字測距時の縦線検出は、横線検出の約2倍の敏感度で行われます。残る8つのAFフレームでは、横線検出、または縦線検出によるAF撮影になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mm F2.5コンパクトマクロを除く

F5.6より明るいレンズ使用時

中央AFフレームでは通常の十字測距、残る8つのAFフレームでは、横線検出、または縦線検出によるAF撮影になります。



AI サーボAF 用としてスポット測光範囲の内側に配置された、AFフレーム表示のない6 つのアシスト（補助）測距点（左図）は、■が中央AF フレームと同じF2.8対応の縦線検出AF、□がF5.6対応の横線検出AFとなります。

画面の端の被写体にピントを合わせる

AFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。フォーカスロック撮影は、AFモードがワンショットAFに設定されているときに有効です。

1 モードダイヤルを〈□〉（全自動）以外にする

2 任意のAFフレームを選択する



3 ピントを合わせる

● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



4 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

5 撮影する

AFモードがAIサーボAF（AIフォーカスAFのサーボ状態を含む）のときは、フォーカスロック撮影できません。

AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

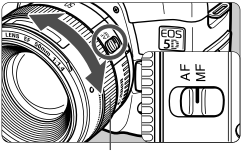
次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

（a）コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体
　　例：青空、単色の平面など
（b）非常に暗い場所にある被写体
（c）極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
　　例：反射光の強い車のボディ
（d）被写体が遠いところと近いところに共存する状態
　　例：おりの中の動物
（e）繰り返し模様の被写体
　　例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。
（1）被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング

1 レンズのフォーカス モードスイッチを〈MF〉にする

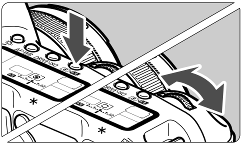
2 ピントを合わせる

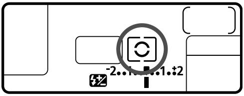
● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

[◉] 測光モードの選択★

測光方式には、評価測光、部分測光、スポット測光、中央部重点平均測光の4つの方式があります。〈□〉（全自動）では評価測光に自動設定されます。



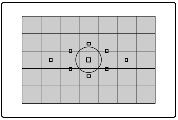


1 〈◉・⚡±〉ボタンを押す（⏱6）

2 測光モードを選ぶ

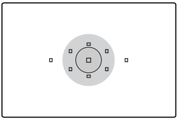
- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

  [◉]：評価測光
  [○]：部分測光
  [•]：スポット測光
  [ ]：中央部重点平均測光



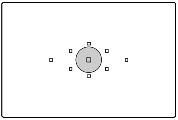
[◉] 評価測光

このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。



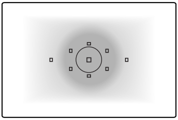
[○] 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約8%の範囲を測光します。測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.5%を測光します。測光範囲はほぼ左図の範囲となります。

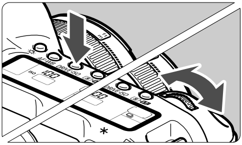


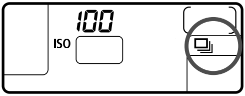
[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

ドライブモードの選択★

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。〈□〉（全自動）では、一枚撮影に自動設定されます。





1 **〈DRIVE·ISO〉ボタンを押す**（⏱6）

2 **ドライブモードを選ぶ**

● 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。

□ ：**1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

連続撮影アイコン ：**連続撮影**（最高約3コマ／秒）
シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

セルフタイマーアイコン ：**セルフタイマー撮影**（p.46）



連続撮影可能枚数

● 撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存してから、順次CFカードに記録するため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。CFカードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタンを半押しして、ファインダー内右下に表示される連続撮影可能枚数で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。
● ファインダー内と表示パネルに「**FuLL CF**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。
● バッテリーの残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

〈□〉（全自動）以外の撮影モードでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の★マークは、〈□〉（全自動）では変更できない機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。



あらかじめ〈⊜〉スイッチを〈／￣〉の位置にしてください。

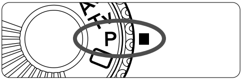
P プログラムAE撮影



〈□〉（全自動）と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

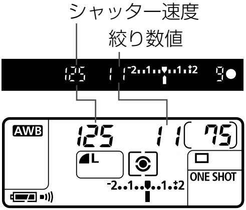


1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

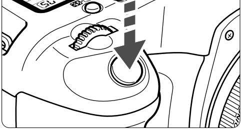
● ファインダーをのぞいて AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



3 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。



4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。



- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉と〈□〉（全自動）の違い

- 自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせはともに同じです。
- 〈**P**〉では次の機能の選択・設定または使用が可能ですが、〈□〉ではできません。

撮影機能関係

- AFモード選択
- AFフレーム任意選択
- ドライブモード選択
- ISO感度設定
- 測光モード選択
- プログラムシフト
- 露出補正
- AEB
- 〈✱〉ボタンによるAEロック
- 被写界深度確認
- カメラ設定登録
- カメラ設定登録解除
- カメラ設定初期化
- カスタム機能（C.Fn）
- カスタム機能一括解除
- 撮像素子の清掃

ストロボ関係（EXスピードライト）

- マニュアル/マルチ発光
- ハイスピードシンクロ（FP発光）
- FEロック
- 光量比制御
- ストロボ調光補正
- FEB
- 後幕シンクロ
- モデリング発光

記録画像関係

- RAW、RAW＋JPEG選択
- ピクチャースタイル選択／調整／登録
- ホワイトバランス選択
- マニュアルWB画像選択
- ホワイトバランス補正
- WBブラケティング設定
- 色温度指定
- 色空間選択

プログラムシフトについて

- プログラムAEは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現できます。

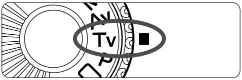
＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



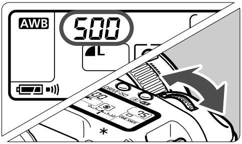
速いシャッター速度



遅いシャッター速度



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
- 1/3段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば、「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"6**」は0.6秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

8000 6400 5000 4000 3200 2500 2000 1600 1250
1000 800 640 500 400 320 250 200 160 125 100
80 60 50 40 30 25 20 15 13 10 8 6 5 4 0"3
0"4 0"5 0"6 0"8 1" 1"3 1"6 2" 2"5 3"2 4" 5"
6" 8" 10" 13" 15" 20" 25" 30"

Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほどピントが合っている範囲が前後に狭くなります。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほどピントが合っている範囲が前後に広くなります。

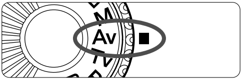
＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。



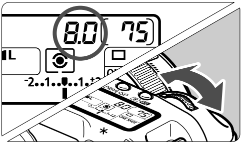
小さい絞り数値



大きい絞り数値



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。
- 1/3段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



● シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。



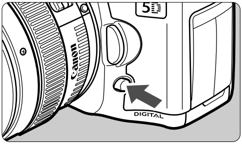
● シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「**00**」を表示します。

1.0	1.1	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4.0
4.5	5.0	5.6	6.3	7.1	8.0	9.0	10	11	13	14	16	18
20	22	25	29	32	36	40	45	51	57	64	72	81
91												

ピントの合っている範囲を確認する★



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、被写界深度（ピントの合っている範囲）をファインダーで確認できます。

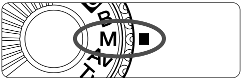
絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M 自分で露出を決めて撮る

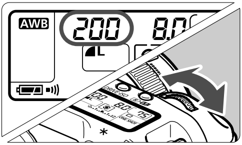


カメラまかせではなく、自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual （マニュアル）の略です。

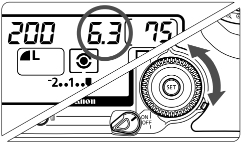


1 モードダイヤルを〈M〉にする



2 シャッター速度を設定する

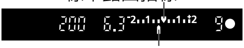
- 表示パネルを見ながら〈メイン電子ダイヤル〉を回します。



3 絞り数値を設定する

- 〈電源スイッチ〉スイッチを〈／〉の位置にして、表示パネルを見ながら〈サブ電子ダイヤル〉を回します。

標準露出指標



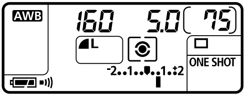
露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。

- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。



5 露出を決める

● 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。



：露出を決めるときの基準です。



：標準露出にするには、シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。



：標準露出にするには、シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

6 撮影する

露出レベルマーク〈▮〉が〈+2〉または〈-2〉の位置で点滅しているときは、露出が±2段を超えていることを示しています。

自分の好みに露出を補正する★

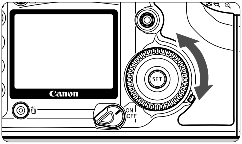
カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影できます。補正できる範囲は、1/3段ステップで±2段です。

1 モードダイヤルを〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉のいずれかにあわせる



2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。



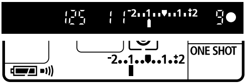
3 補正量を設定する

- 〈⊖〉スイッチを〈／〉の位置にして、ファインダー内または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- 〈◎〉の操作はシャッターボタン半押し中か、半押し後（⏱4）作動中に行います。
- 露出補正を解除するときは、補正量を〈▼〉の位置に戻します。

プラス補正

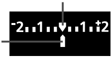


マイナス補正



標準露出指標

露出レベルマーク



マイナス補正 ◀‥‥‥▶ プラス補正

4 撮影する

- 設定した補正量は〈⊖〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値8.0が適正露出のとき、露出レベル表示で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	−1段 ← 0 → ＋1段
シャッター速度なら	250 ← 125 → 60
絞り数値なら	11 ← 8.0 → 5.6

- 不用意に〈◎〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。〈⊖〉スイッチを〈ON〉の位置にすると安全です。

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影★

1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。



標準露出



マイナス補正



プラス補正

---

1 ［AEB設定］を選ぶ

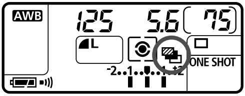
- 〈◎〉を回して［AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 AEBレベルを設定する



AEBレベル

- 〈◎〉を回してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈AEB〉とAEBレベルが表示されます。



3 撮影する

標準露出



マイナス補正



プラス補正



- ➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- ➡ 左図のように、撮影順に補正位置が表示されます。
- ➡ 設定しているドライブモード（p.80）に従って撮影されます。

AEB撮影の解除



- 手順1、2の操作でAEBレベルを〈-2..1..0..1..2+〉にします。
- 〈電源〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換でも解除されます。

ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

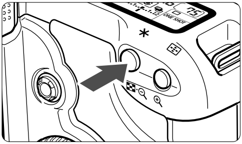
- ドライブモードが連続撮影（連続）のときは、3枚撮影後に自動停止します。1枚撮影（□）のときは、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- セルフタイマーを併用したときは、自動的に3枚連続撮影されます。
- カスタム機能C.Fn-12-1（ミラーアップ撮影）を設定して AEB撮影すると、ドライブモードを連続撮影しても1枚撮影になります。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。

✱露出を固定して撮る／AEロック撮影★

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影に利用します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。

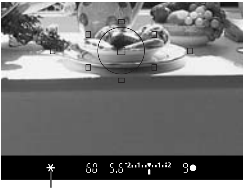
1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。



2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。



AEロック表示

3 構図を決めて撮影する

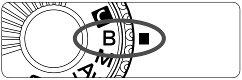
- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

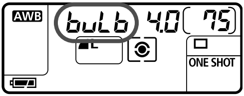


- ワンショットAF、AIフォーカスAF（AIサーボAF時を除く）のときは、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時にAEロックされます 。
- AFフレームの選択と測光方式の組み合わせにより、AEロックの効果は変わります。詳しくは『AEロックの効果』（p.158）を参照してください。

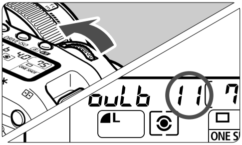
長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



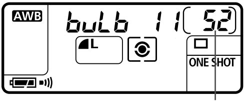


1 モードダイヤルを〈B〉にする



2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。



露光経過時間

3 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。

➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。（1〜999秒まで表示）

● 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

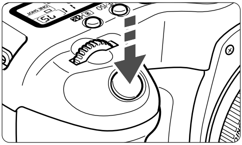
長時間露光は撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になります。

● 長時間露光の撮影では、撮影画像にノイズが含まれることがあります。カスタム機能C.Fn-02［**長秒時露光のノイズ低減**］を［1：**自動低減**］、または［2：**する**］に設定すると（p.149）、ノイズを軽減することができます。

● バルブ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

ミラーアップ撮影★

カスタム機能C.Fn-12 [**ミラーアップ撮影**] を [**1:する**] に設定すると（p.152）、ミラーアップと露光を別々に行う、ミラーアップ撮影ができます。ミラーショックが気になる近接撮影や、望遠レンズを使用するときに活用してください。カスタム機能の設定は、メニューの［**カスタム機能(C.Fn)**］で行います。



1 シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

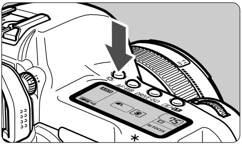
2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後すみやかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影をするときは、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー2秒間+バルブ撮影時間）。タイマー作動中の2秒のあいだに、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ミラーアップ撮影は、ドライブモードの設定（1枚撮影/連続撮影）にかかわらず1枚撮影になります。
- セルフタイマーを設定してミラーアップ撮影すると、シャッターボタン全押しでミラーが上がり、2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。
- ミラーアップ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

☼表示パネルの照明

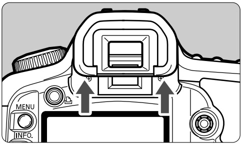


表示パネルには照明機能が付いています。〈☼〉ボタンを押すたびに照明が点いたり消えたりします。暗い場所での撮影で、表示パネルが見にくいときに使用してください（⏱6）。表示パネルの照明は撮影終了後、自動的に消えます。

- 表示パネルが照明されている間に、撮影に関わる各種ボタン、モードダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。
- バルブ撮影時は、シャッターボタン全押しで表示パネルの照明が消えますが、〈☼〉ボタンを押すと6秒間照明を行います。

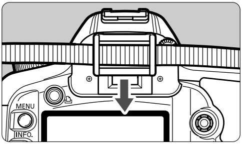
アイピースカバーの使い方

セルフタイマーやリモートスイッチ（別売）を使うときなど、ファインダーから目を離して撮影すると、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのときは、アイピースカバー（p.19）を使います。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。



2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

MENU 電子音を鳴らないようにする

すべての撮影モードで電子音を鳴らないようにすることができます。

1 ［電子音］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 **電子音**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［切］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**切**］を選び、〈SET〉を押します。

MENU CFカードの入れ忘れを防止する

CFカードが入っていないときに、撮影できないようにすることができます。
すべての撮影モードで設定できます。

1 ［カードなしレリーズ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 **カードなしレリーズ**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［しない］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**しない**］を選び、〈SET〉を押します。

［**しない**］に設定して、CFカードを入れずにシャッターボタンを押すと、ファインダー内と表示パネルに「**no CF**」が表示されます。

ストロボを使った撮影

EXシリーズスピードライトでの撮影

このカメラは、EOS専用EX シリーズスピードライトを使用すると、通常のAE撮影と同じ感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。詳しい操作方法につきましては、各EXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXシリーズスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

●E-TTL II 自動調光

E-TTL II は、調光制御方式の改善とレンズ距離情報の活用により、従来のE-TTL（プリ発光・記憶式評価調光)以上の高精度ストロボ調光を実現した、自動調光システムです。このカメラでは、どのEXスピードライトを使用しても、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

●ハイスピードシンクロ（FP発光）

30秒から1/8000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。

●FE（Flash Exposure）ロック

カメラの〈✱〉ボタンを押すと、被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。
ストロボ露出を適正にしたい部分をファインダー中央において〈✱〉ボタンを押します。FEロック中は、ファインダー内に〈ϟ*〉が表示されます。

●ストロボ調光補正

通常のAE露出補正と同じ感覚で、ストロボ光のみの調光補正を行うことができます。補正できる範囲は、カメラ側設定で1/3段ステップ±2段、ストロボ側設定（調光補正対応ストロボのみ）で1/3段ステップ±3段です。

●FEB（Flash Exposure Bracketing）撮影

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます（FEB対応ストロボのみ)。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。
FEB中は、ファインダー内の〈ϟ*〉が点滅します。

ストロボ使用時に〈⦿・ϟ±〉ボタンを押しながら〈◎〉を回すと、ストロボの調光補正を行うことができます。

●ワイヤレス多灯・E-TTL II 自動調光撮影

カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL II 自動調光撮影ができます。接続コードが不要であるため、自由で高度なライティング設定が可能です（ワイヤレス対応ストロボのみ）。

TTL、A-TTL自動調光スピードライトでの撮影

- TTL、A-TTL 自動調光の EZ/E/EG/ML/TL シリーズスピードライトをTTL、A-TTL自動調光状態で使用すると常時フル発光します。カメラの撮影モードをマニュアル露出、または絞り優先AEに設定すると、絞り数値を変えてのマニュアル・フル発光撮影を行うことができます。なお、ストロボ側の表示は、TTL、またはA-TTL自動調光状態のままです。
- 580EX、550EXのカスタム機能C.Fn-03-1を設定して、TTL自動調光にしているときにも常時フル発光となります。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは 1/200秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは 1/125秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点はコードの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。
- このカメラのシンクロ端子には極性がありませんので、お使いのシンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持っています）およびストロボ用付属品をお使いになると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。同様に、カメラのシンクロ端子に250V以上の電圧がかかるものも使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。

6

撮影画像の再生

撮影した画像を見る方法や消去する方法、またテレビとの接続方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像データを加工したり、ファイル名を変更した画像は、正常に表示できないことがあります。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後にカメラ背面の液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないときは［**切**］に設定します。



1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 確認時間を設定する

- 〈◎〉を回して希望する確認時間を選び、〈SET〉を押します。

- 撮影直後の画像表示中に〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。
- ［**ホールド**］に設定した場合、撮影画像はシャッターボタンを半押しするまで表示されます。ただし、オートパワーオフ設定時は、設定時間になると自動的に電源が切れます。
- 1枚撮影後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押して、［OK］を選ぶと、表示中の画像を消去することができます。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『撮影した画像を再生する』（p.105）を参照してください。

MENU 縦横自動回転表示の設定

縦位置撮影した画像を再生するときに、画像の確認が行いやすいよう、画像を自動回転させて表示することができます。

1 ［縦横自動回転表示］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ϒϒ 縦横自動回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［入］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**入**］を選び、〈SET〉を押します。

3 縦位置で撮影する

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像は自動回転表示されません。



4 画像を再生する

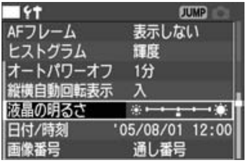
- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 縦位置で撮影した画像が左図のように見やすい位置で表示されます。

- 自動回転表示が行われるのは、［**縦横自動回転表示**］を［**入**］に設定して撮影した画像のみです。［**切**］で撮影した画像は、設定を［**入**］にしても自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されないことがあります。

カメラの縦横の向き（姿勢）を変えると、カメラの姿勢を検出するセンサーの機構により、小さな音がすることがありますが、故障ではありません。

MENU 液晶の明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを5段階に調整することができます。



1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ƳƬ 液晶の明るさ］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 調整画面が表示されます。



2 明るさを調整する

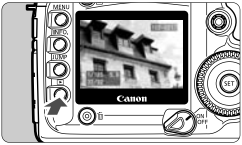
- 画面左のグレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整します。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.107）で確認することをおすすめします。

撮影した画像を再生する

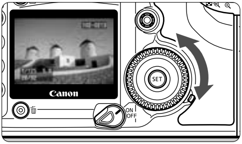
撮影した画像を自由に選択して、1枚表示や撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示などで見ることができます。

〈▶〉1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

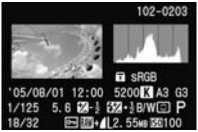


2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が切り換わります。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。



1枚表示
（簡易情報あり）



撮影情報表示

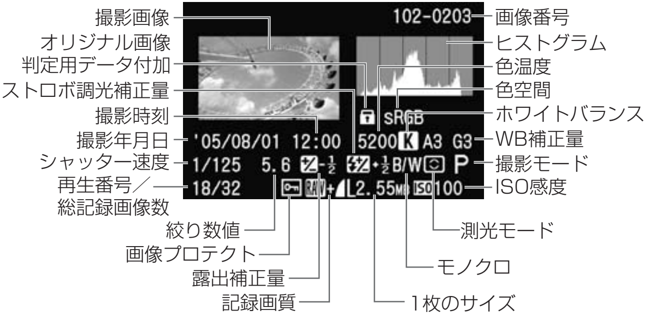


1枚表示
（撮影情報なし）

- 〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターが消え、再生が終了します。

- インデックス表示、拡大ズーム表示など、1枚表示以外の再生方法でも〈INFO.〉ボタンを押すと、簡易情報のあり／なしを切り換えることができます。
- 連続撮影後の CF カード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に〈▶〉ボタンを押すと、その時点でCFカードへの書き込みが終了した最後の画像を表示します。〈◎〉を回すと、画像を選ぶことができます。CFカードへの書き込みが終了した画像が順次再生できるようになります。

撮影情報表示について



ハイライト警告表示について

撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白飛びした部分を点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

MENU AFフレーム表示について

メニュー機能の［▶ AFフレーム］を［**表示する**］に設定すると、撮影情報表示の画像にAFフレームを表示します。

ワンショットAF撮影の画像では、ピントの合ったAFフレームを表示します。なお、AFフレーム自動選択で撮影したときは、ピントの合ったAFフレームが複数表示されることがあります。

AIサーボAF撮影の画像では、選択したAFフレームを表示します。なお、AFフレーム自動選択で撮影したときは、ピント合わせに使用したAFフレームを表示します。

AIサーボAF＋中央AFフレーム＋C.Fn-17-01（AFフレームの領域拡大：する）を組み合わせて撮影した画像では、中央AF フレームとその上下にあるAFフレーム表示のないアシスト（補助）測距点（p.74）も表示します。

MENU ヒストグラムについて

メニュー機能の［▶ **ヒストグラム**］で、［**輝度**］、または［**RGB**］の表示を選ぶことができます。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。
ヒストグラムでは、画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。
横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。
再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例


暗い成分が多いとき


普通の明るさのとき


明るい成分が多いとき

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。
RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

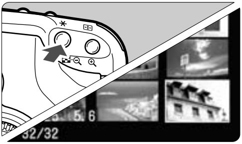
⊞インデックス表示

1画面に9枚の画像を同時に表示します。

1 画像を表示する

● 〈▶〉ボタンを押します。

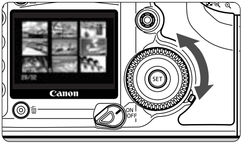
➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。



2 インデックス表示にする

● 〈⊞･Q〉ボタンを押します。

➡ 選択されている画像に緑色の枠がつきます。



3 画像を選ぶ

● 〈◎〉回すと、緑色の枠が移動します。

インデックス表示から別の表示形式に変えるには

● 〈▶〉ボタンを押すと1枚表示になります。

● 〈⊕〉ボタンを1回押すと1枚表示に、もう一度押すと拡大ズーム表示になります。

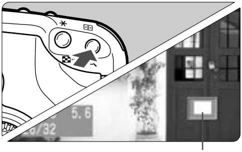
インデックス表示中に〈JUMP〉ボタンを押して〈◎〉を回すと、前または次の9枚目の画像へジャンプすることができます。（p.112）

⊕／⊖ 拡大ズーム表示

撮影した画像を、約1.5倍〜10倍に拡大して表示することができます

1 画像を表示する

● 拡大したい画像を1枚表示、または撮影情報表示で再生します。



拡大表示位置

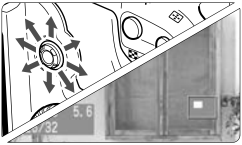
2 画像を拡大する

● 〈⊕〉ボタンを押します。

➡ 初めに画面の中央が拡大表示されます。

● 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。

● 〈▦·⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、手順1の状態まで連続的に小さくなります。



3 表示位置を移動する

● 〈✣〉を操作すると、表示位置が上下左右、斜めに移動します。

● 手順2、3を繰り返して希望する位置を拡大します。

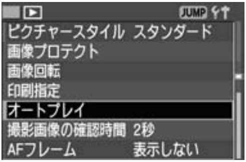
● 拡大表示を終了するときは、〈▶〉ボタンを押します。

● 拡大ズーム表示中に〈〉、または〈◎〉を回すと、拡大位置、拡大率を固定した状態で、表示画像を切り換えることができます。

● C.Fn-18-1を設定しているときは、〈⎙〉ボタンを押しながら〈⊕〉／〈▦·⊖〉ボタンを押して拡大／縮小表示を行います。

MENU 撮影画像を自動再生する／オートプレイ

CFカードに記録されている画像を自動的に連続表示します。1画像の表示時間は約3秒です。



1 ［オートプレイ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **オートプレイ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ オートプレイ画面になります。





2 自動再生する

- ➡ ［**画像読み込み中・・・**］が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、自動再生を再開します。

3 自動再生を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、自動再生が終了しメニューに戻ります。

- 自動再生中は、オートパワーオフは機能しません。
- 撮影画像により、表示時間が異なる場合があります。

- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の表示形式を切り換えることができます。
- 一時停止中に〈◎〉を回すと、表示画像を切り換えることができます。

MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計方向に90°、270°回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しくセットしておくと、再生のときに正しい向きで表示することができます。



1 ［画像回転］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像回転画面になります。



⬇



2 画像を回転する

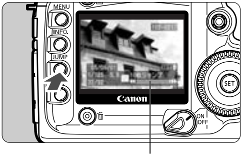
- 〈◎〉を回して回転したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転します。
- ほかに回転したい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー機能の［ **縦横自動回転表示**］を［入］（p.103）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 手順1のあとで画像の表示形式を撮影情報表示、拡大ズーム表示、インデックス表示にしたあとで、画像を回転することもできます。

JUMPジャンプ表示する

1枚表示、撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示のときに、画像を飛ばして表示（ジャンプ）することができます。

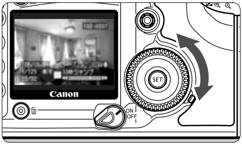
1 画像を再生する



ジャンプバー

2 ジャンプ表示にする

- 〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下にジャンプバーが表示されます。

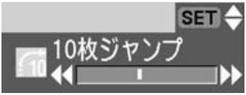


3 前後の画像にジャンプする

- 〈◎〉を回します。
- 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。
- 〈◎〉を回すと直前、直後の画像を表示します。

1枚表示、撮影情報表示のジャンプ

1枚表示、撮影情報表示では、ジャンプ方法（10枚／100枚／日付／フォルダ）を切り換えることができます。



- 上記の手順2で〈JUMP〉ボタンを押したあと、〈SET〉を押して〈◎〉を回します。
- ➡ ジャンプバーに表示されたジャンプ方法（p.113）が切り換わります。
- 〈SET〉を押すと設定完了です。
- 〈◎〉を回すと設定した方法でジャンプします。

1枚表示、撮影情報表示のジャンプ

「10枚ジャンプ／100枚ジャンプ」の場合

〈◎〉を左に回すと前の10枚／100 枚目、右に回すと次の10 枚／100枚目の画像を表示します。

「日付ジャンプ」の場合

撮影日（同じ撮影日の画像が複数ある場合は、その日最初に撮影したコマ）単位でジャンプします。〈◎〉を回すと前後の日付にジャンプします。

「フォルダジャンプ」の場合

フォルダ単位でジャンプします。〈◎〉を回すと前後のフォルダにジャンプします。ジャンプしたフォルダの中で、最初に撮影した画像が表示されます。

拡大ズーム表示のジャンプ

〈◎〉を左に回すと前の10枚目、右に回すと次の10枚目の画像を表示します。拡大率、拡大位置が固定された状態でジャンプします。

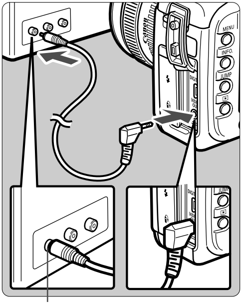
インデックス表示のジャンプ

〈◎〉を左に回すと前の9枚目、右に回すと次の9枚目の画像を表示します。

［**画像プロテクト**］［**画像回転**］［**MWB画像選択**］でジャンプ表示を行うこともできます。

撮影した画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで見ることができます。接続するときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。



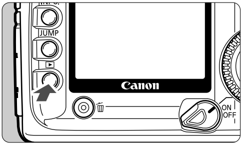
ビデオ入力端子

1 **カメラをテレビに接続する**

- カメラの端子カバーを開けます。
- カメラの〈VIDEO OUT〉ビデオ出力端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

2 **テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをビデオ入力にする**

3 **〈⏻〉スイッチを〈ON〉または〈／⁻〉の位置にする**



4 **〈▶〉ボタンを押す**

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 見終わったら、〈⏻〉スイッチを〈OFF〉にして、テレビの電源を切ってから、ビデオケーブルを取り外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式を設定すると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー機能の［**ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
- 使用するテレビ（モニター）によっては、表示の四隅が欠けて表示されることがあります。

MENU 撮影画像を保護する

大切な画像を間違って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。



1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ 画像プロテクト］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。



プロテクト表示

2 プロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の下に〈O-m〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈O-m〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

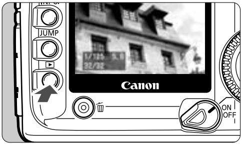
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけて全画像消去（p.117）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去するときに便利です。
- 手順1のあとで画像の表示形式を撮影情報表示、拡大ズーム表示、インデックス表示にしたあとで、画像にプロテクトをかけることもできます。

🗑撮影画像を消去する

画像を消去する方法には、1枚ずつ消去する方法とCF カードに記録されているすべての画像を消去する方法があります。なお、プロテクトをかけた画像は、消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚消去

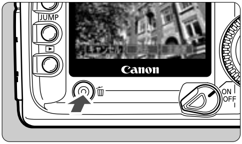


1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 消去する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去 する画像を選びます。



3 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。



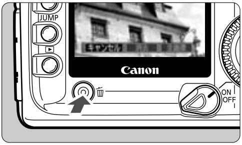
4 消去する

- 〈◎〉を回して［**消去**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。
- ほかに消去したい画像があるときは、手順2〜4を繰り返します。

全画像消去

1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。



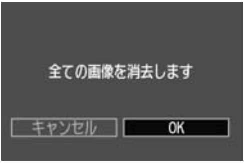
2 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。



3 ［全画像］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**全画像**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。



4 消去する

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトをかけていないすべての画像が消去されます。
- 消去中に〈SET〉を押すと消去作業が中止されます。

連続撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に〈▶〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、表示中の画像または全画像を消去することができます。［**全画像**］を選び〈SET〉を押すと、連続撮影した画像（未現像処理画像を含む）とCFカードに記録されているすべての画像が消去されます。

MENU CFカードを初期化する

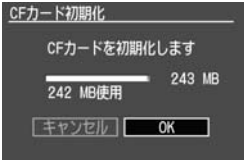
このカメラで使用できるようにCFカードを初期化（フォーマット）します。

CFカードを初期化すると、CFカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカード内の記録内容を十分に確認してから行ってください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンへ保存してください。



1 **［CFカード初期化］を選ぶ**

- 〈◎〉を回して［**ꝏ CFカード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。



2 **初期化する**

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ CFカードが初期化されます。
- ➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。

- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。そのときは、このカメラで初期化してください。初期化することで、使用できる場合があります。
- 初期化の画面で表示されるCFカードの総容量は、CFカードに書かれている容量よりも少なくなることがあります。

「Err CF」が表示されたときは

表示パネルに「**Err CF**」（CFエラー警告）が表示されたときは、CFカードに何らかの障害が発生して、記録／読み出しができない状態になっています。別のCFカードに交換してください。

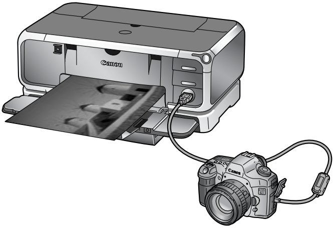
カードリーダー（市販品）を使用して、パソコンでCFカードの内容が読み取れる場合は、CFカード内の撮影データをすべてパソコンに保存してください。すべての撮影データがパソコンに保存されたことを確認したら、CFカードを初期化してください。正常な状態に戻る場合があります。

7

カメラダイレクトプリント

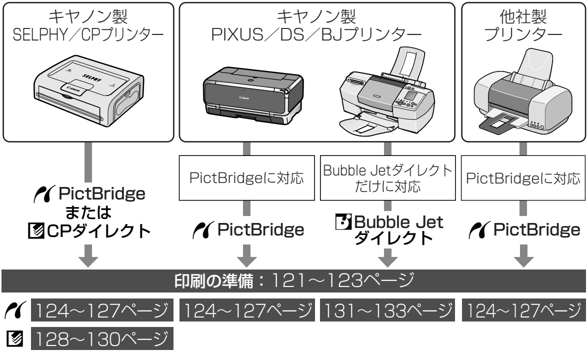
カメラとプリンターを直接つないで、CFカードに記録されている画像を印刷します。

このカメラでは、ダイレクトプリント標準規格の「〈 〉PictBridge（ピクトブリッジ）」対応プリンターと、キヤノン独自規格の「〈 〉CPダイレクト」、「〈 〉Bubble Jet（バブルジェット）ダイレクト」対応プリンターでダイレクトプリントを行うことができます。



本章の説明内容について

この章では、下の図で示すように、プリンターの種類別に説明内容を分けています。『印刷の準備をする』（次ページ）の操作を行うと、お使いのプリンターにあったダイレクトプリントの説明が何ページにあるか、より詳しくわかります。



弊社PictBridgeホームページについて

下記の弊社PictBridge ホームページをご覧になると、キヤノン製のカメラとプリンターを接続したときに、どのような用紙が使用できるかなどを確認することができます。

http://canon.jp/pictbridge/

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います。**

カメラの設定

1 ［通信設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**Ｙ↑ 通信設定**］を選び、〈SET〉を押します。

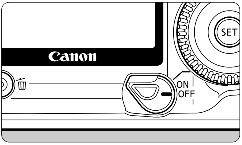


2 ［印刷/PTP］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**印刷/PTP**］を選び、〈SET〉を押します。

- カメラをパソコンに接続するときは、［**通信設定**］を［**PC接続**］にしてください。［**印刷/PTP**］ではパソコンとの通信ができないことがあります。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源に AC アダプターキット ACK-E2（別売）の使用をおすすめします。

カメラとプリンターの接続



1 カメラの〈◎〉スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

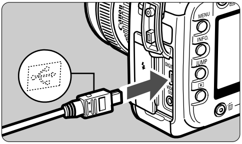
- 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

● 次の表（プリンターとケーブルについて）を参照して、使用するケーブルを選んでください。

プリンターとケーブルについて

接続するプリンター		使用するケーブル
	PictBridgeだけに対応	**カメラに付属の インターフェースケーブル** 両方のプラグに〈 〉マークが付いています
	PictBridgeと CPダイレクトに対応	
	PictBridgeと Bubble Jetダイレクトに対応	
	CPダイレクトだけに対応	**プリンターに付属のケーブル** 片方のプラグだけに〈 〉マークが付いています
	Bubble Jetダイレクトだけに対応	



● カメラ側を接続するときはプラグの〈 〉が、カメラの前面に向くようにして、プラグをカメラの〈**DIGITAL**〉デジタル端子に差し込みます。
● プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの〈 〉スイッチを〈ON〉または〈／￣〉にする

➡ プリンターの機種によっては、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge



CPダイレクト



Bubble Jetダイレクト



6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターと接続されていることを示すマーク〈PictBridge〉、または〈CP〉、〈Bubble Jet〉が表示されます。
- ➡ 〈印刷〉ボタンのランプが青色に点灯します。
- 表示されるマークによって、操作方法が異なります。表示されるマークに応じたページを参照してください。

マーク	参照ページ
(PictBridge)	124〜127、136
(CPダイレクト)	128〜130、136
(Bubble Jetダイレクト)	131〜133、136

- RAW画像は、ダイレクトプリントできません。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。なお、印刷する際はバッテリーの残量に注意してください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、PictBridge対応プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、次の操作を行ってください。
  1.〈SET〉を押す
  2.印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ
  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。『**エラーメッセージについて**』（p.127）を参照して問題を解決してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。
- カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- ダイレクトプリント中は、ケーブルを取り外さないでください。

PictBridge で印刷

使用するプリンターによって設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示



1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面



- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 印刷効果を設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します

設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** 使用するプリンターの機種によっては、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**



3 ［用紙設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**用紙設定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定



- 〈◎〉を回してプリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定



- 〈◎〉を回してプリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ レイアウトの設定画面になります。

用紙タイプについて

キヤノン製PIXUS/DS/BJプリンターで、キヤノン純正用紙を使うときは、次のように設定してください。

スーパーフォトペーパー	フォト
プロフェッショナルフォトペーパー	高級フォト
スーパーフォトペーパー	標準設定

他社製プリンター使用時は、プリンターの使用説明書を参照してください。

レイアウトの設定



- 〈◎〉を回して希望する印刷レイアウトを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

レイアウトについて

フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。 「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	用紙のまわりに余白をつけて印刷します。
フチあり i	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報 *を印刷します。
＊＊面配置	用紙1枚に同じ画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 i **35面配置**	DPOFで印刷指定した画像を20、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ［**20面配置 i**］では、画像の横に撮影情報*を印刷します。
標準設定	キヤノン製プリンターでは、「フチなし」で印刷されます。

* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度などを印刷します。

日付／画像番号印刷



印刷効果



印刷枚数



4 その他の項目を設定する

- 必要に応じて〈〉日付／画像番号印刷、〈〉印刷効果 、〈〉印刷枚数を設定します。
- 〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
- BJプリンターの機種によっては、〈〉印刷効果で、［VIVID］（緑や青空を鮮やかに印刷）、［NR］（ノイズ低減）、［VIVID+NR］、［顔明るく］（逆光などで暗くなった顔を明るく補正）、または［入］が選択できます。
- トリミングについては、134 ページを参照してください。



5 印刷する

- 〈◎〉を回して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷が開始されます。
- 印刷が終了すると、手順1の状態に戻ります。
- 印刷を中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈◎〉を回して［**OK**］を選び〈SET〉を押します。

- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質によっては、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかります。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

プリンターの用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

プリンターのインク残量や、廃インクタンクの状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題がプリンターに発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。
別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

⊠CPダイレクトで印刷

プリンター接続表示



1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈⊠〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面



何枚印刷するかを設定します
印刷範囲を設定します
印刷スタイル（様式）を設定します
手順1の画面に戻ります
印刷を開始します

設定されている印刷スタイルが表示されます。
〈⊙〉は日付のマークです

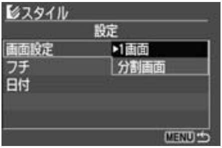


3 ［スタイル］を選ぶ

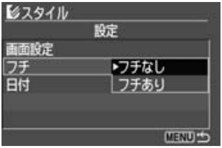
- 〈◎〉を回して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル設定画面になります。

［画面設定］



［フチ］



［日付］



4 項目を設定する

- ［画面設定］［フチ］［日付］の設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［画面設定］は、カードサイズの用紙使用時に選択できるようになります。［分割画面］を選ぶと、用紙1 枚に同じ画像を小さく8画面印刷します。
- ［フチ］［日付］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して印刷設定画面に戻ります。



5 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して［枚］を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して印刷枚数を設定し、〈SET〉を押します。
- 1～99枚まで設定できます。

6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、134 ページを参照してください。



7 印刷する

- 〈◎〉を回して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷が開始されます。
- 印刷が終了すると、手順1の状態に戻ります。
- 印刷を中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈◎〉を回して［**OK**］を選び〈SET〉を押します。

- 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、日付が薄く印刷されることがあります。
- ［**分割画面**］を選ぶと、［**フチ**］［**日付**］の設定はできません。［**フチなし**］、［**日付**］は［**切**］で印刷されます。また、画像の上下左右がカットされて印刷されます。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。日付は用紙の右下に印刷されます。
- 印刷中に［**中止**］を選んだ場合、印刷枚数が1枚のときは印刷を中止できません。2枚以上のときは次の印刷から中止されます。
- 印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または（問題を解決したあとで）［**続行**］を選びます。［**続行**］が表示されないときは、［**中止**］を選びます。

〈印〉Bubble Jet ダイレクトで印刷

プリンター接続表示



1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈印〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面



- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します
- 印刷スタイル（様式）を設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します

設定されている印刷スタイルが表示されます。
〈⊙〉は日付のマークです

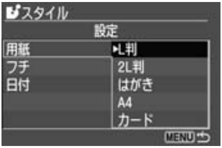


3 ［スタイル］を選ぶ

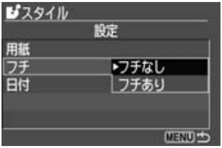
- 〈◎〉を回して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル設定画面になります。

［用紙］



［フチ］



［日付］



4 項目を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［**用紙**］は、プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。
- ［**フチ**］［**日付**］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して印刷設定画面に戻ります。



5 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して［**枚**］を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して印刷枚数を設定し、〈SET〉を押します。
- 1～99枚まで設定できます。

6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、134 ページを参照してください。



7 印刷する

- 〈◎〉を回して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷が開始されます。
- 印刷が終了すると、手順1の状態に戻ります。
- 印刷を中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈◎〉を回して［**OK**］を選び〈SET〉を押します。

［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。日付は用紙の右下に印刷されます。
- 印刷中に［**中止**］を選ぶと、印刷が中止され、印刷中の用紙が排紙されます。
- 印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または［**続行**］を選びます。［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、問題を解決すると自動的に印刷を再開します。
- 操作パネルがある BJ プリンターを使用しているときは、エラー発生時にエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

トリミング（印刷範囲）の設定

画面を部分的に拡大した印刷や、構図を変えたような感じで印刷することができます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。



1 ［トリミング］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**トリミング**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ トリミング画面になります。







2 トリミングする

- トリミング枠の内側が印刷される範囲です。
- 操作案内表示は、トリミング操作中消えます。操作をやめて約5秒経過すると再表示します。

枠の大きさを変える

- 〈⊕〉、〈▦·⊖〉ボタンを押すと、トリミング枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

- 〈✣〉を操作するとトリミング枠が上下左右、斜めに移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびにトリミング枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。



3 設定を終了する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。
- ➡ 画面左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種によっては、トリミング枠のとおりに印刷されないことがあります。
- トリミング枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。印刷の画質が粗くなるときに、トリミング枠が赤く表示されます。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングすると、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

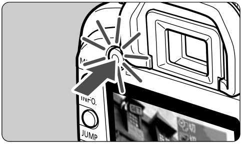
トリミング枠の形状は、［**用紙設定**］、［**画面設定**］/［**用紙**］、［**レイアウト**］/［**フチ**］の設定で変わります。

かんたん印刷

お使いのプリンターでダイレクトプリントを行うと、その設定がカメラに記憶されます。同じ設定で印刷するときは、以下の手順で「かんたん印刷」を行うことができます。

1 カメラとプリンターをつないで印刷できる状態にする

2 画像を再生して印刷する画像を選ぶ



3 青いランプが点灯した〈⎙〉ボタンを押す

➡ 青いランプが点滅して、印刷が開始されます。

- 「かんたん印刷」では、1回の操作で1枚ずつしか印刷できません。
- 「かんたん印刷」では、トリミングの設定は反映されません。
- C.Fn-18-1を設定していると、〈⎙〉ボタンを押しても印刷できません。

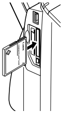
8

撮影画像の印刷指定／DPOF

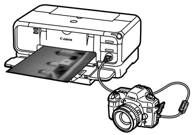
CFカードに記録されている画像の中から、印刷したい画像や枚数などを、あらかじめカメラで指定することができます。この機能を印刷指定機能（DPOF）といいます。DPOF対応のプリンターなどで印刷するときや、写真店にプリントを注文するときに便利な機能です。

DPOF（ディーポフ）について

DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中から、印刷したい画像や枚数などの印刷指定情報を、CFカードに記録するための規格です。DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。



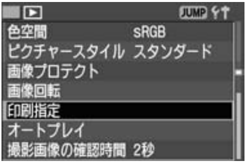
- DPOF 対応のプリンターに CF カードを入れるだけで、指定したとおりに印刷できます。
- ダイレクトプリント対応のプリンターから直接、指定したとおりに印刷できます。
- 写真店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要になります。



MENU 撮影画像を印刷指定する

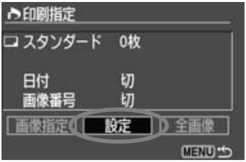
印刷内容の設定

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。



1 ［印刷指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ 印刷指定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷指定画面になります。



2 ［設定］を選ぶ

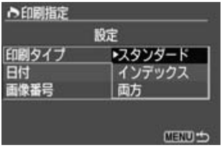
- 〈◎〉を回して［設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面になります。



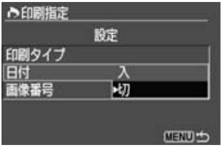
3 項目を設定する

- ［印刷タイプ］［日付］［画像番号］の内容を設定します。
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

［印刷タイプ］



［日付］



［画像番号］



印刷タイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切	
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切	

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像は印刷指定できません。
- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種によっては、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**] では、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったCFカードを使用してください。画像データだけをCFカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器によっては、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- ほかのカメラで撮影した画像を、このカメラに入れて印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類によっては、印刷指定できないことがあります。

1画像ずつ指定



1 [画像指定] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**画像指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像指定画面になります。



2 印刷指定する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選びます。
- 〈▦·Q〉を押すと、3画像表示になります。〈⊕〉を押すと、元の表示に戻ります。

3画像表示



3 印刷の指定をする

- ［**印刷タイプ**］(p.138) の設定状態によって、指定の内容が変わります。



[スタンダード] [両方] の場合

- 画像ごとにスタンダードタイプの印刷枚数を最大99枚まで設定できます。
- 〈SET〉を押したあと、〈◎〉を回して印刷枚数を選び、〈SET〉を押します。



［インデックス］の場合

- インデックス印刷に加える（〈✓〉表示）／加えない（〈✓〉なし）を設定します。
- 〈SET〉を押すと〈✓〉がつき、もう一度〈SET〉を押すと〈✓〉が消えます。

- ほかに指定したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 合計998画像まで指定できます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がCFカードに保存され、メニューに戻ります。

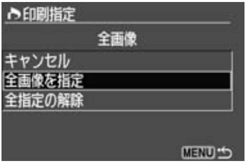
全画像指定

CF カードに記録されている全画像の印刷指定と解除ができます。スタンダードタイプの印刷枚数は、すべて1画像1枚になります。
「1 画像ずつ指定」の操作をしたあとで「全画像指定」の操作を行うと、全画像指定の設定に変わりますので、注意してください。



1 ［全画像］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**全画像**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 全画像指定画面になります。



2 ［全画像を指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**全画像を指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ すべての画像が 1 枚ずつ印刷指定され、印刷指定画面に戻ります。
- ［**全指定の解除**］を選ぶと、すでに印刷指定されていた画像の指定がすべて解除されます。
- ［**キャンセル**］を選ぶと、印刷指定画面に戻ります。

3 設定を終了する

- 印刷指定画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 指定した内容が CF カードに保存され、メニューに戻ります。

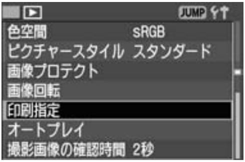
- 全画像指定をしても、RAW画像は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

MENU 印刷指定画像のダイレクトプリント

DPOFで印刷指定した画像を、ダイレクトプリント対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

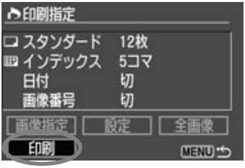
- 121, 122ページを参照してください。『カメラの設定』と『カメラとプリンターの接続』の手順5まで行います。



2 ［印刷指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 印刷指定画面になります。



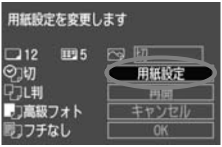
3 ［印刷］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**印刷**］は、カメラとプリンターを接続して、印刷できる状態になっていないと表示されません。

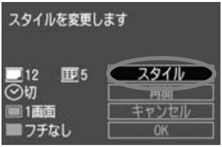
➡ 印刷設定画面になります。

4 印刷内容を設定する

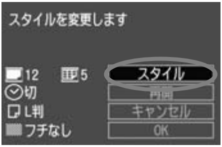
PictBridge



CPダイレクト



Bubble Jetダイレクト



PictBridge

- ［**用紙設定**］と〈 〉印刷効果を設定します。（p.124）

CPダイレクト／ Bubble Jet ダイレクト

● ［**スタイル**］を設定します。(p.128／131)

5 印刷する

● 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 印刷が開始されます。

● 印刷を中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈◎〉を回して［**OK**］を選び〈SET〉を押します。

● PictBridge、Bubble Jetダイレクトで印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。

● PictBridgeでは、プリンターの機種によって画像番号が印刷できないことがあります。

● ［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

● 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、プリンターの機種によっては、日付が薄く印刷されることがあります。

● CPダイレクトで［**印刷タイプ**］が［**インデックス**］のとき、用紙1枚に印刷される画像数は以下のとおりです。
・クレジットカードサイズ：20画像　・Lサイズ：42画像
・ポストカードサイズ：63画像
Bubble Jetダイレクトで印刷したときの画像数については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

● 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、［**再開**］を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
・再開する前に印刷指定を変更した場合
・再開する前に印刷指定した画像を削除した場合
・CPダイレクトでインデックス設定時、再開する前に用紙カセットを変更した場合
・PictBridgeでインデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更した場合
・印刷を中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合

● 印刷中に問題が発生したときは、PictBridge：127ページ、CPダイレクト：130ページ、Bubble Jetダイレクト：133ページを参照してください。

9

カメラをカスタマイズする

現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C〉に登録することができます。
また、さまざまな撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

- カスタム機能は〈□〉（全自動）以外で設定、機能します。

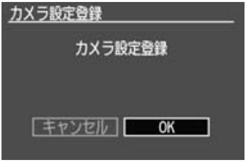
MENU カメラ設定の登録★

カメラに設定されているほとんどの内容を、モードダイヤルの〈C〉に登録することができます。**撮影モードは、〈□〉（全自動）以外にしてください。〈□〉（全自動）に設定されていると登録できません。**



1 ［カメラ設定登録］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**カメラ設定登録**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 以下の設定内容がモードダイヤルの〈C〉に登録されます。

撮影機能設定内容

撮影モードと設定値・AFモード・AFフレーム・測光モード・ISO感度・ドライブモード・露出補正・ストロボ調光補正・ホワイトバランス

メニュー設定内容

記録画質・電子音・カードなしレリーズ・AEB設定・WB補正／WB-BKT・MWB画像選択・色温度・色空間・ピクチャースタイル・撮影画像の確認時間・AFフレーム・ヒストグラム・オートパワーオフ・縦横自動回転表示・液晶の明るさ・画像番号（付けかた）・カスタム機能

〈C〉に設定しているときもドライブモードやメニューなどの変更が可能ですが、その変更内容を登録したいときは、上記のカメラ設定登録の操作を行ってください。

- 登録されている内容は、〈C〉を選択した状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、液晶モニターに表示されます。
- 〈C〉の設定を初期状態に戻すときは、148ページの手順2で［**カメラ設定登録解除**］を選択してください。35ページの設定に戻ります。

MENU カスタム機能の設定方法★



1 ［カスタム機能（C.Fn）］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ カスタム機能（C.Fn）］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カスタム機能設定画面になります。

カスタム機能番号



2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して希望する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



設定内容

3 設定を変更する

- 〈◎〉を回して希望する設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面下でカスタム機能の設定状態を確認することができます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。
- メニューを終了すると、表示パネルに〈C.Fn〉が表示されます。

C.Fn-00フォーカシングスクリーンの設定を、C.Fn-00-0から変更しても表示パネルに〈C.Fn〉は表示されません。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは★



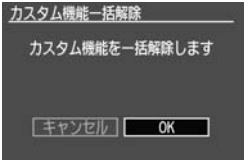
1 ［設定解除］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［YT 設定解除］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定解除画面になります。



2 ［カスタム機能一括解除］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［カスタム機能一括解除］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び〈SET〉を押すと、カスタム機能がすべて解除されます。

- C.Fn-00フォーカシングスクリーンの設定は解除されません。
- 撮影モードが〈C〉のときは、カメラ設定初期化とカスタム機能一括解除は選択できません。

MENU カスタム機能で変更できる内容★

C.Fn-01　撮影時のセットボタン機能

撮影準備状態における、〈SET〉の機能の割り当てを変更することができます。

0：通常（なし）

1：記録画質選択

〈SET〉を押したあと、表示パネルを見ながら、記録画質を〈◎〉で直接設定することができるようになります。

2：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイルの選択画面が表示されます。〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。

3：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：画像の再生

〈▶〉ボタンと同じになります。

C.Fn-02　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動低減

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理を行います。
通常は、この［**自動低減**］で十分な効果が得られます。

2：する

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理を行います。
［**自動低減**］で検出／低減できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズ低減できることがあります。

撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで再生とメニュー操作はできません。なお、低減処理中であっても、ファインダー内の連続撮影可能枚数が「**1**」以上のときは、撮影することができます。

C.Fn-03　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

1：1/200秒固定

絞り優先AE（Av）モードでのストロボ撮影で、シャッター速度を1/200秒に固定します。（夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、被写体の背景が暗くなります。）

C.Fn-04　シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出を固定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体の撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-04とC.Fn-19-0,1,2（p.155）は、共にAF作動／停止とAEロックの機能を持っていますが、この2つを併用して二重操作を行った場合、あとから行う操作で有効になるのは、AFスタート後のAFストップ操作だけです。他の二重操作では、あとから行った操作は有効になりません。

C.Fn-05　AF補助光の投光

EOS専用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じてAF補助光を投光します。

1：しない

C.Fn-06　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。



C.Fn-07　ストロボの発光

外部ストロボ、シンクロ端子を利用した汎用ストロボの発光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

C.Fn-08　ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、ISO50相当「**L**」ISO3200相当「**H**」が選択できるようになります。

C.Fn-09　ブラケティング順序/自動解除

シャッター速度、または絞り数値を自動的に変化させるAEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影時のファイル保存順序を変更することができます。

「自動解除する」を選択すると、以下の条件でブラケティングが解除されます。

AEB：〈⊜〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換

WB-BKT：〈⊜〉スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、CFカード交換

0：0 → − → ＋ /する

1：0 → − → ＋ /しない（ストロボ充電完了時のみ自動解除）

最初の1枚を標準露出（または基準WB）にしたブラケティング撮影を、何回も繰り返すときに有効です。

2：− → 0 → ＋ /する

マイナス（またはブルー寄りかマゼンタ寄り）補正から順にブラケティング撮影することができます。

3：− → 0 → ＋ /しない（ストロボ充電完了時のみ自動解除）

マイナス（またはブルー寄りかマゼンタ寄り）補正からのブラケティング撮影を、何回も繰り返すときに有効です。

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0：基準ホワイトバランス
−：マイナス補正	−：ブルー寄りに補正	−：マゼンタ寄りに補正
＋：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

C.Fn-10　スーパーインポーズの表示

0：する

1：しない

ピントが合ったときにファインダー内のAFフレームの赤色点灯表示を行いません。点灯がわずらわしいときに設定します。
ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn-11　メニューの表示位置

〈MENU〉ボタンを押したときの、メニュー項目の表示位置を設定することができます。

0：直前のメニュー（電源切で先頭）

前回設定したメニュー項目を表示します。
ただし、〈⊜〉スイッチを〈OFF〉にすると、一番初めのメニュー項目［**記録画質**］を表示します。

1：直前のメニュー

前回設定したメニュー項目を表示します。

2：メニューの先頭

常に一番初めのメニュー項目［**記録画質**］を表示します。

C.Fn-12　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

近接撮影や望遠撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影については、95ページを参照してください。

C.Fn-13　AFフレーム選択方法

0：通常

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈✲〉でAFフレームを選びます。

1：マルチコントローラーダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✲〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押すと自動選択になります。

2：サブ電子ダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押しながら〈⌒〉を回すと、露出補正を行うことができます。

C.Fn-14 E-TTL II 調光方式

0： 評価調光

暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。

1： 平均調光

測光領域全体で平均的に調光します。自動補正は行ないませんので、状況に応じてストロボ調光補正を行ってください。また、FEロック時も状況に応じて調光補正を行ってください。

C.Fn-15 ストロボのシンクロタイミング

0： 先幕シンクロ

1： 後幕シンクロ

遅いシャッター速度を設定したときに、光源の軌跡を写し込むことができます。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。同調（シンクロ）タイミング切り換え機能がないEXスピードライトで、後幕シンクロができるようになります。切り換え機能を持つEXスピードライトでは、ストロボ側の設定が優先されます。

後幕シンクロに設定したときは、シャッターボタンを全押しした直後に、調光制御のためにストロボがプリ発光します。そのあと、シャッターが閉じる直前に本発光しますので注意してください。

C.Fn-16 セイフティシフトの設定

0： しない

1： する

シャッター優先AE（Tv）、絞り優先AE（Av）撮影時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、設定したシャッター速度、絞り数値が不適切になっても、設定値を自動的に変更して適正露出にします。

C.Fn-17　AFフレームの領域拡大

0：しない

1：する

AIサーボAFで中央AFフレームを選択したときに、スポット測光範囲内のAFフレーム表示のないアシスト（補助）測距点を使用して、計7点で被写体を捕らえます（p.74）。中央AFフレーム1点では捕捉しにくい、不規則に動く被写体を撮影するときに有効です。

C.Fn-18　液晶モニター表示中の撮影状態復帰

0：シャッターボタンでのみ復帰

1：✱ボタンなどでも復帰

再生中やメニュー表示中に、〈✱〉、〈AF･WB〉、〈⊡〉、〈◉･⚡〉、〈DRIVE･ISO〉、〈☼〉、絞り込みボタンを押すと、再生／メニュー表示を終了して、操作したボタンの機能を有効にします。
また、撮影直後の画像表示中に、〈⎙〉ボタンを押しながら〈⊕〉／〈▦･⊖〉ボタンを押すと、画像の拡大／縮小表示を行うことができます。

- 〈▶〉で再生した画像の拡大／縮小表示も、〈⎙〉ボタンを押しながら〈⊕〉／〈▦･⊖〉ボタンを押して行います。
- 『かんたん印刷』（p.136）はできなくなります。

C.Fn-19　レンズ・AFストップボタンの機能

0：AFストップ

1：AFスタート

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAFの作動は行いません。

2：AEロック(タイマー中)

測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：AFフレーム 任意→自動　自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけAFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に、任意選択したAFフレームで追従できなくなったときに有効です。AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AFフレームが選択されます。

4：ONE SHOT ⇔ AI SERVO

ワンショットAF設定時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF設定時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動·停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能のスイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。

AFストップボタンは、大型の超望遠レンズに装備されています。

C.Fn-20　オリジナル画像判定用データの付加

0：しない

1：する

撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.106）で再生すると、〈🔒〉マークが表示されます。オリジナル画像の判定には、オリジナルデータ確認キットDVK-E2（別売）が必要です。

C.Fn-00　フォーカシングスクリーン

このカメラは、フォーカシングスクリーンを撮影目的にあわせて交換することができます。お使いになるフォーカシングスクリーンのタイプに応じて、このカスタム機能で適正露出の基準設定を変更する必要があります。

0：Ee-A

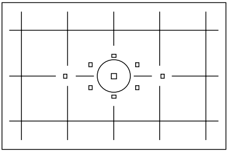
1：Ee-D

2：Ee-S

フォーカシングスクリーンの特性について

Ee-A：標準プレシジョンマット
購入時のカメラに組み込まれている標準フォーカシングスクリーンです。ファインダーの明るさと、手動ピント合わせのしやすさをバランスよく両立しています。

Ee-D：方眼プレシジョンマット
Ee-A に方眼線を引いたフォーカシングスクリーンです。構図の垂直・水平決めを楽に行うことができます。



Ee-S：スーパープレシジョンマット
Ee-Aよりもピントの山をつかみやすくしたフォーカシングスクリーンです。手動ピント合わせを主にされているかたに有効です。なお、ファインダーの明るさは、Ee-Aよりも暗くなります。

- EOS 5Dの標準フォーカシングスクリーンはEe-Aですので、購入時の状態はC.Fn-00-0に設定されています。
- フォーカシングスクリーンの交換方法は、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- C.Fn-00の設定は、カメラ設定の登録内容（p.146）に含まれません。

10

資料

カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

撮影機能の組み合わせについて

AFモードとドライブモードの関係

ドライブモード	AFモード		
	ワンショットAF	AIフォーカスAF	AIサーボAF
1枚撮影	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光の場合は、露出を固定します。（撮影前に露出を記憶）	被写体の状態によってワンショットAFからAI サーボAFに自動的に切り換わります。	被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります。（1秒間に最高約3コマ）連続撮影中にピント合わせは行われません。		上と同じ条件で連続撮影となります。（1秒間に最高約3コマ）連続撮影中もピント合わせが行われます。

AEロックの効果

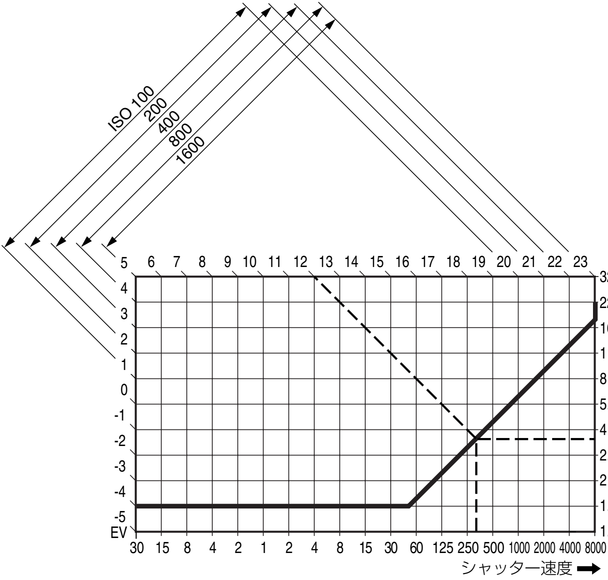
（撮影モードが〈□〉（全自動）以外のとき）

測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
評価測光*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
部分測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	
スポット測光		
中央部重点平均測光		

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

プログラム線図

〈**P**〉（プログラムAE）に設定したときのプログラム線図を示します。



図の見かた

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。

図の左端と上端に目盛られている被写体輝度（EV数値）の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが線で示されています。

例：EF50mm F1.4 USMのレンズを使用したとき、被写体輝度がEV12の場合は、上端の12の位置から右下45゜の方向にのばした線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度が1/320秒、絞り数値がF3.5に自動設定されることがわかります。左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は、ISO感度に対する測光輝度範囲です。

故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理サービスご相談窓口にご相談ください。

電源

バッテリーが充電できない

- **専用のバッテリーを使用していますか？**
- ➡ バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512を使用してください。
- **バッテリーチャージャーに正しくセットしましたか？**
- ➡ バッテリーパックを正しくセットしてください。（p.20）

〈〉スイッチを〈ON〉、〈／￣〉の位置にしてもカメラが作動しない

- **バッテリーが消耗していませんか？**
- ➡ バッテリーパックを充電してください。（p.20）
- **バッテリーを正しく入れましたか？**
- ➡ バッテリーパックを正しく入れてください。（p.22）
- **バッテリー室ふたが開いていませんか？**
- ➡ バッテリー室ふたをしっかりと閉めてください。（p.22）
- **CFカードスロットカバーが開いていませんか？**
- ➡ CFカードスロットカバーをしっかり閉めてください。（p.26）

〈〉スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- **撮影後、すぐに〈〉スイッチを〈OFF〉にしても、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。**
- ➡ CFカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

バッテリーの消耗が早い

- **バッテリーが十分に充電されていますか？**
- ➡ バッテリーパックを十分に充電してください。（p.20）
- **バッテリーの寿命ではありませんか？**
- ➡ 新しいバッテリーパックをお買い求めください。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いていませんか？
- ➡ シャッターボタンを半押ししてください。オートパワーオフ機能が働かないようにするときは、メニュー機能の［**🔧 オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

表示パネルに〈▭〉のみが点滅している

- バッテリーの残量が極端に少なくなっています。
- ➡ バッテリーパックを充電してください。（p.20）

撮影

撮影・記録ができない

- CFカードが正しくセットされていますか？
- ➡ CFカードを正しく入れてください。（p.26）
- CFカードがいっぱいになっていませんか？
- ➡ 新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（p.26、116）
- バッテリーが消耗していませんか？
- ➡ バッテリーパックを充電してください。（p.20）
- ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅していませんか？）
- ➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（p.28、78）

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- ゴミやほこりがついていませんか？
- ➡ 眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。
- 液晶が消耗していませんか？
- ➡ 別紙のお客様相談センターにご相談ください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉になっていませんか？
  ➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（p.25）
- シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？
  ➡ 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください。（p.28、42）

CFカードが使えない

- 表示パネルに［**Err xx**］が表示されていませんか？
  ➡［**Err CF**］のときは、118ページを参照してください。
  ➡［**Err 02**］のときは、163ページを参照してください。
- キヤノン製以外のCFカードを使用していませんか？
  ➡ キヤノン製CFカードの使用をおすすめします。（p.165）

撮影画像の確認・操作

画像を消去できない

- 画像にプロテクトをかけていませんか？
  ➡ プロテクトを解除してください。（p.115）

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されていますか？
  ➡ 日付/時刻を正しく設定してください。（p.38）

テレビに画像が表示されない

- ビデオケーブルのプラグを根元まで差し込んでいますか？
  ➡ ビデオケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込んでください。（p.114）
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）が正しく設定されていますか？
  ➡ 接続する機器と同じビデオ出力方式に設定ください。（p.34）
- カメラに付属のビデオケーブルを使用していますか？
  ➡ 付属のビデオケーブルを使用してください。（p.114）

エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、表示パネルに「**Err xx**」が表示されます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。

頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「**xx**」の数値を控えて別紙の修理サービスご相談窓口にご相談ください。

また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈▶〉ボタンを押して画像を確認してください。

エラーコード	対 応
Err 01	カメラとレンズの通信不良です。 レンズの接点を清掃してください。（p.9）
Err 02	CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。CFカードの抜き差しを行う。CFカードを初期化する。別のCFカードに交換する。
Err 04	CFカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。
Err 99	上記以外の異常が発生しました。 シャッターボタンを半押しするか、バッテリーの抜き差しを行ってください。 他社製のレンズを使用すると、カメラやレンズが正常に作動できず、このエラーが発生することがあります。

主なアクセサリー（別売）



バッテリーパック BP-511A

大容量のリチウムイオン二次電池パックです。



ACアダプターキット ACK-E2

家庭用電源キット（ACアダプター、DCカプラー、電源コード）です。AC100～240Vに対応しています。



コンパクトパワーアダプター CA-PS400

BP-511A用の急速充電器です。1パックの充電所用時間は約110分、一度に2パックの取り付けができます。また、DCカプラーDR-400（別売）を接続することもできます。AC100～240Vに対応しています。



バッテリーグリップ BG-E4

BP-511Aを2個、または単3形電池を6本装填可能なバッテリーグリップです。縦位置用シャッターボタン、電子ダイヤル、AEロック/FEロックボタン、AFフレーム選択ボタンを装備しています。



クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用するストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。



マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボ（2種類）があります。片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL II 自動調光で簡単に行うことができます。



リモートスイッチ RS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおける、カメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は約80cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。カメラへの接続プラグはワンタッチロック式です。



タイマーリモートコントローラー TC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長約80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。カメラへの接続プラグはワンタッチロック式です。



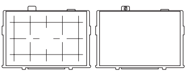
ワイヤレスコントローラー LC-5

最大到達距離、約100mのワイヤレスコントローラーです。送信機と受信機で構成されています。受信機のカメラ接続プラグをカメラのリモコン端子に接続して使用します。



視度補正レンズ E

内蔵の視度調整機能との組み合わせで、さらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類（−4dpt〜＋3dpt）用意されています。



フォーカシングスクリーンEe-D、Ee-S

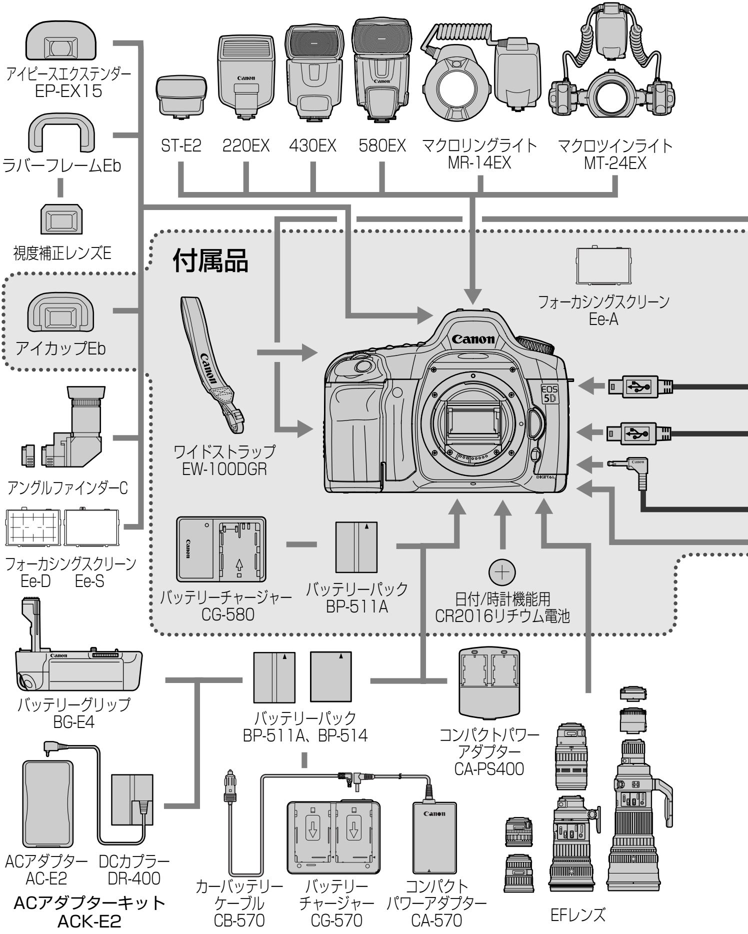
交換用フォーカシングスクリーンとして、構図の垂直・水平決めを楽に行うことができる方眼線付きのEe-Dと、ピントの山がつかみやすいEe-Sが用意されています。



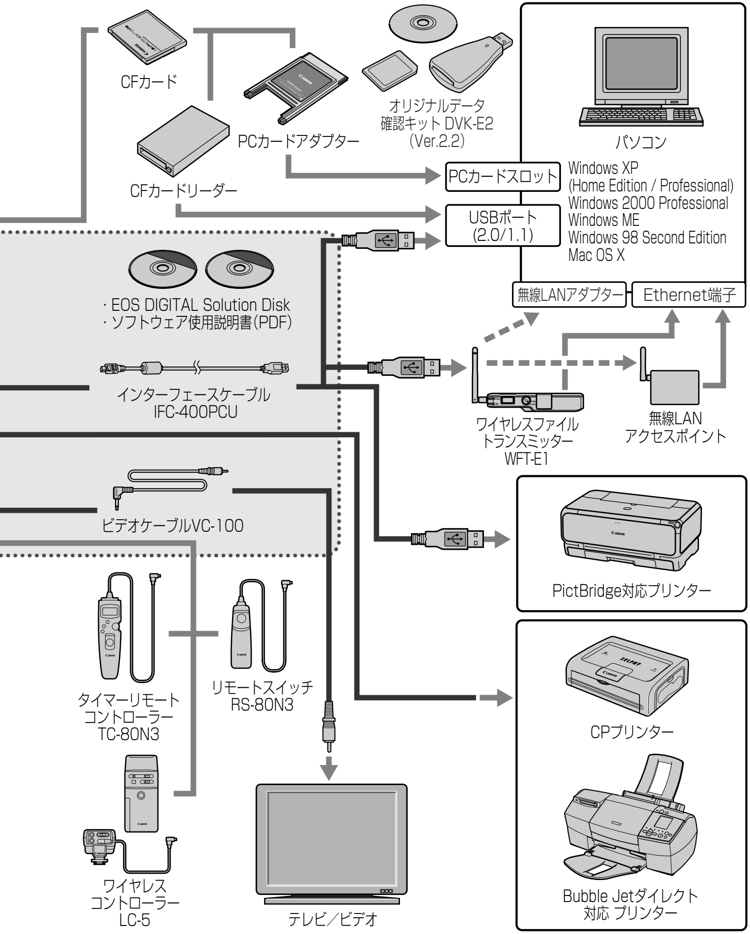
CFカード

撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。CFカードは、キヤノン製CFカードの使用をおすすめします。

システムマップ



アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
フォーカシングスクリーン
Ee-D
Ee-S
ST-E2
220EX
430EX
580EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
付属品
ワイドストラップ
EW-100DGR
フォーカシングスクリーン
Ee-A
バッテリーチャージャー
CG-580
バッテリーパック
BP-511A
日付/時計機能用
CR2016リチウム電池
バッテリーグリップ
BG-E4
バッテリーパック
BP-511A、BP-514
コンパクトパワー
アダプター
CA-PS400
ACアダプター
AC-E2
DCカプラー
DR-400
ACアダプターキット
ACK-E2
カーバッテリー
ケーブル
CB-570
バッテリー
チャージャー
CG-570
コンパクト
パワーアダプター
CA-570
EFレンズ



CFカード
PCカードアダプター
オリジナルデータ
確認キット DVK-E2
（Ver.2.2）
パソコン
PCカードスロット
USBポート
(2.0/1.1)
Windows XP
(Home Edition / Professional)
Windows 2000 Professional
Windows ME
Windows 98 Second Edition
Mac OS X
CFカードリーダー
無線LANアダプター
Ethernet端子
・EOS DIGITAL Solution Disk
・ソフトウェア使用説明書(PDF)
インターフェースケーブル
IFC-400PCU
ワイヤレスファイル
トランスミッター
WFT-E1
無線LAN
アクセスポイント
ビデオケーブルVC-100
PictBridge対応プリンター
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモートスイッチ
RS-80N3
CPプリンター
ワイヤレス
コントローラー
LC-5
テレビ／ビデオ
Bubble Jetダイレクト
対応 プリンター

主な仕様

■型式

型式	デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体	CFカード（タイプI、II準拠） * マイクロドライブ、2GB以上のCFカード使用可
撮像画面サイズ	35.8×23.9mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズ除く）
レンズマウント	キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式	高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数	カメラ部有効画素：約1280万画素 総画素：約1330万画素
アスペクト比	3：2
カラーフィルター方式	RGB原色フィルター
ローパスフィルター	固定式、撮像素子前面に配置

■記録形式

記録フォーマット	DCF 2.0
画像タイプ	JPEG、RAW（12bit）
RAW＋JPEG同時記録	可能
ファイルサイズ	(1)Large/Fine ：約4.6MB（4368×2912画素） (2)Large/Normal ：約2.3MB（4368×2912画素） (3)Middle/Fine ：約2.7MB（3168×2112画素） (4)Middle/Normal：約1.4MB（3168×2112画素） (5)Small/Fine ：約2.0MB（2496×1664画素） (6)Small/Normal ：約1.0MB（2496×1664画素） (7)RAW ：約12.9MB（4368×2912画素） * ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度、ピクチャースタイルなどにより異なる
フォルダ設定	フォルダ作成／選択可能
画像番号	通し番号、オートリセット、強制リセット
色空間	sRGB、Adobe RGB
ピクチャースタイル	スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定3種類
インターフェース	USB 2.0 Hi-Speed（印刷/PTP／PC接続選択可能） ビデオ出力（NTSC／PAL選択可能）

■ホワイトバランス

種類……オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度指定
オートホワイトバランス…撮像素子を用いたオートホワイトバランス
色温度補正……ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能
色温度情報通信……対応

■ファインダー

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下／左右とも約96％
倍率……約0.71倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント……20mm
視度調整範囲……－3.0～＋1.0dpt
フォーカシングスクリーン…交換式（別売2種類）、Ee-A（プレシジョンマット）標準装備
ミラー……クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：600mm F4までなし）
ファインダー情報……AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、AEロック、露出レベル表示、部分測光範囲、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正）、ホワイトバランス補正、連続撮影可能枚数、CFカード情報
被写界深度確認……絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式……CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
（TTL二次結像位相差検出方式）
測距点……9点、およびアシスト（補助）測距点6点
測距輝度範囲……EV－0.5～18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード……ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択……自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示……ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光……専用ストロボの内蔵AF補助光による

■露出制御

測光方式............................ 35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約8%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.5%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................ EV1～20 （常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）
露出制御方式 .... 全自動、プログラムAE（シフト可）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、E-TTL II自動調光
ISO感度............................ ISO100～1600相当（1/3段ステップ）、およびISO50、3200相当の感度拡張が可能
全自動：ISO100～400相当自動設定
露出補正............................ 手動 ：1/3、1/2段ステップ±２段（AEB併用可能）
AEB ：1/3、1/2段ステップ±２段
AEロック.......................... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる（すべての測光方式で可能）

■シャッター

形式.................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 .... 1/8000～30秒（1/3、1/2段ステップ）、バルブ
X=1/200秒
レリーズ方式 .... ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー 10秒後撮影
リモコン............................ N3タイプ端子リモコン対応

■外部ストロボ

EOS専用ストロボ .... EXシリーズスピードライト使用時、E-TTL II自動調光
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±２段
FEロック .... 可能
シンクロ端子 .... あり
画面サイズ対応ズーム ...... 対応

■ドライブ関係

ドライブモード .... 1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー（10秒）
連続撮影速度 最高約3コマ/秒
連続撮影可能枚数 .... JPEG（Large/Fine）：約60枚、RAW：約17枚
* キヤノン純正512MBCFカード使用時
* 被写体条件、ISO感度、ピクチャースタイル、CFカードなどにより異なる

■液晶モニター

形式……………………………TFT 式カラー液晶モニター
画面サイズ……………………2.5型
画素数…………………………約23万画素
視野率…………………………約100%
輝度調整………………………5段階に調整可能
表示言語………………………15言語

■再生機能

画像表示形式…………………1枚、撮影情報、9枚インデックス、拡大ズーム（約1.5倍～10倍）、オートプレイ、および画像回転、ジャンプ（10枚/100枚/日付/フォルダ）
ハイライト表示………………撮影情報表示のとき、画像情報のないハイライト部分を点滅表示
ヒストグラム表示……………輝度、RGB
AFフレーム表示………………可能

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト……………………1枚単位でプロテクト、解除
消去……………………………1枚、またはCFカード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター………………CPダイレクト、Bubble Jetダイレクト、およびPictBridge対応プリンター
印刷対応画像…………………JPEG画像（DPOF指定画像の印刷も可能）
簡単印刷機能…………………あり

■印刷指定機能

DPOF……………………………バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カメラ設定登録………………モードダイヤル〈C〉に設定状態を登録
カスタム機能…………………21種57項目

■電源

使用電池……バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512、1個使用
* DCカプラー使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E4装着時、単3形電池使用可能

撮影可能枚数……常温（+20℃）：約800
低温（0℃）：約400
*フル充電のバッテリーパックBP-511A使用時

バッテリーチェック……自動

節電機能……あり、設定時間（1/2/4/8/15/30分）経過で電源切

日付/時計機能用電池……CR2016リチウム電池、1個使用

■大きさ・質量

大きさ……152（幅）×113（高さ）×75（奥行）mm

質量……約810g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度……0℃～+40℃

使用可能湿度……85%以下

■バッテリーパックBP-511A

形式……リチウムイオンバッテリー

公称電圧……DC7.4V

容量……1390mAh

大きさ……38（幅）×21（高さ）×55（奥行）mm

質量……約82g

■バッテリーチャージャー CG-580

充電可能バッテリー……バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512

充電時間……BP-511A、BP-514：約100分
BP-511、BP-512：約90分

定格入力……AC100～240V

定格出力……DC8.4V

使用可能温度……0℃～+40℃

使用可能湿度……85%以下

大きさ……91（幅）×67（高さ）×31（奥行）mm

質量……約115g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索　引

英数字

10枚／100枚ジャンプ................. 113
1画像ずつ指定................................ 140
1枚撮影.. 80
1枚消去.. 116
1枚表示.. 105
ACアダプターキット...... 17, 24, 164
Adobe RGB..65
AE.. 82
AEB.. 91
AEロック................................93, 158
AFフレーム...................................... 75
AF補助光..150
AFモード..72
AIサーボAF...................................... 73
AIフォーカスAF...............................74
Av...86
Bubble Jet ダイレクト.................131
C.Fn.. 149
CFカード..................9, 26, 118, 165
CPダイレクト 128
DCF..2
DCカプラー.............................. 17, 24
DPOF.. 137
E-TTL II 自動調光..............................98
E-TTL II 調光方式...........................153
EXスピードライト........................... 98
FEB.. 98
FEロック撮影....................................98
FP発光..98
INFO....................................... 70, 105
ISO感度..58
ISO感度拡張 151
JPEG...48
M（Manual）..................................... 88
MF..78
MWB.. 60
NTSC.................................... 34, 114
P（Program）.................................. 82
PAL...................................... 34, 114
PictBridge................................... 124
RAW... 49
RAW+JPEG.................................... 48
sRGB... 65
Tv.. 84
WB-BKT.. 63

あ

アイピースカバー....................... 19, 96
アクセサリー 164
アクセスランプ.................................27
圧縮率... 48
イージープリント.......................... 136
色あい... 53
色温度... 61
色空間... 65
色の濃さ... 53
印刷/PTP...................................... 121
印刷指定.. 137
印刷枚数.......... 126, 129, 132, 140
インターフェースケーブル..................3
インデックス 139
インデックス表示.......................... 108
液晶の明るさ 104
液晶モニター 9, 34
エラーコード表示.......................... 163
オートパワーオフ...................... 28, 37
オートプレイ 110
オートリセット.................................69
オリジナル画像
判定用データの付加....................... 155

か

カードなしレリーズ.......................... 97
回転表示.. 111

拡大ズーム表示 109
拡張子 48, 69
各部の名称 12
カスタム機能 149
カスタム機能一括解除 148
画像番号 68
家庭用電源 24
カメラ設定初期化 35
カメラ設定内容表示 70
カメラダイレクトプリント ... 119, 143
カメラの構え方 42
かんたん印刷 136
強制リセット 69
記録画質 48
言語 36
現像処理 49
合焦マーク 15
コントラスト 53

さ

再生 105
再生系 31, 33
撮影画像の確認時間 102
撮影可能枚数 23, 49
撮影機能の組み合わせ 158
撮影系 31, 33
撮影情報表示 106
撮影モード 16
撮像素子の清掃 40
サブ電子ダイヤル 18, 30
システムマップ 166
自動回転表示 103
自動再生 110
自動選択 75
視度調整 42
絞り数値 86
シャープネス 53
シャッター速度 84
シャッターボタン 28
ジャンプ表示 112
充電 20
手動ピント合わせ 78
仕様 168
消去 116
初期化 118
白黒画像 52
シンクロタイミング 153
シンクロ端子 100
スーパーインポーズ表示 152
スタイル 128, 131
スタンダード 51, 139
ストラップの取り付け方 19
ストロボ 98, 100
ストロボ調光補正 98
ストロボ同調速度 149
スポット測光 79
セイフティシフト 153
設定解除 34
セットアップ系 31, 34
セルフタイマー 46, 80
全押し 28
全画像指定 142
全画像消去 117
全自動 44
測光モード 79

た

タイマー機能 18
ダイレクトプリント 119, 143
縦横自動回転表示 103
中央部重点平均測光 79
忠実設定 51
調光補正 98
長時間露光 94
調色 55
通信設定 121

電源スイッチ............................ 18, 28
電子音..97
通し番号..68
ドライブモード..................................80
トリミング 134

な

ニュートラル 51
任意選択..75
ノイズ低減 149

は

ハイスピードシンクロ.......................98
ハイライト警告.............................. 106
バッテリー 20, 22, 164
バッテリーチェック..........................22
バッテリーチャージャー.................. 16
バルブ..94
半押し..28
汎用ストロボ.................................. 100
ピクチャースタイル...........51, 53, 56
ピクトブリッジ.............................. 124
被写界深度確認..................................87
ヒストグラム 107
日付／時刻の設定..............................38
日付／時計用電池の交換................... 39
日付ジャンプ 113
ビデオケーブル.............................. 114
ビデオ出力 114
評価測光..79
表示パネル 9, 14
表示パネル照明..................................96
ファームウェア..................................34
ファインダー 15
フィルター効果..................................55
風景.. 51
フォーカスモードスイッチ 72, 78
フォーカスロック.............................. 77
フォルダ 66
フォルダジャンプ.......................... 113
付属品...3
部分測光 79
ブラケティング順序....................... 151
プログラムAE.................................. 82
プログラムシフト............................ 83
プロテクト 115
ポートレート 51
保護.. 115
ホワイトバランス............................ 59
ホワイトバランスブラケティング..... 63
ホワイトバランス補正 62

ま

マニュアルフォーカス 78
マニュアルホワイトバランス 60
マルチコントローラー 18, 30
ミラーアップ 95
メイン電子ダイヤル................... 18, 29
メニュー画面 31
メニュー機能 33, 34
モードダイヤル................................ 16
モノクロ 52

や

ユーザー設定 52
用紙設定 124

ら

レンズ...9, 25
連続撮影 80
連続撮影可能枚数............................. 50
露出設定ステップ.......................... 150
露出補正 90

わ

ワイヤレス多灯撮影......................... 99
ワンショットAF 73

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスについては、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、または別紙の各相談窓口にお問い合わせください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理サービスご相談窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2005年8月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、別紙のお客様相談センターにお問い合わせください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5195 - 000 PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0